

科目ナンバリング： CGS002
授業形態： 講義
科目名： 日本国憲法
担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

この授業では、日本国憲法の土台をなす立憲主義およびそれを生み出した歴史的背景について理解した上で、日本国憲法の構造および主要な規定内容について学んでいく。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	1．豊かな人間性や主体的に生きる力
		2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	短期大学	豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】

この授業は、以下の事項を修得することを目標とする。
憲法の土台をなす立憲主義の内容について理解し、それを説明することができる。
立憲主義が誕生した歴史的背景と立憲主義の変遷について理解し、それを説明することができる。
日本国憲法の制定経緯について理解し、それを説明することができる。
日本国憲法の構造および主要な規定内容について理解し、それを説明することができる。
憲法の知識を通じて現代社会の諸問題を分析することができる。

【成績の評価】

成績評価は、定期試験の点数に基づいて行う（100％）。試験後に試験内容についてフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし。毎回の授業時に配布するプリントに基づいて授業を進める。

【参考文献】

長谷部恭男(解説)『日本国憲法』（岩波文庫、2019年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。それを生かし、講義の中で憲法と現実政治との関係についても触れる。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	【憲法の意義と機能】 立憲主義の意義と憲法の規範構造について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
2	【憲法の歴史：近代憲法の成立】 近代憲法が成立した経緯について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
3	【憲法の歴史：近代憲法の変遷と現代憲法の成立】 近代憲法の変遷と現代憲法の成立について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
4	【日本国憲法の概要】 日本国憲法の全体構造と特徴について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
5	【国民主権】 国民主権の意義、およびその規範的意味について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
6	【天皇制】 象徴天皇制の概要と天皇の国事行為について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
7	【平和主義】 平和主義の意義と憲法9条に関する解釈・判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
8	【平等権】 平等権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
9	【表現の自由】 表現の自由の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
10	【参政権】 参政権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
11	【社会権】 社会権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
12	【権力分立】 権力分立の意義およびその現代的変容について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
13	【違憲審査制】 違憲審査制の意義とその限界について学ぶ。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
14	【司法権の独立】 司法権の独立の意義とそれを脅かす要因につ	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	いて学ぶ。	復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
15	【授業のまとめ】 授業内容を振り返るとともに、試験を行った上でフィードバックを行う。	予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CCI101

授業形態： 演習

科目名： 情報基礎演習【保】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業では、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	短期大学	課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		学科が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Wordを対象としてワープロの主要な機能を使うことができる。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN:9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は当該回の予習などです（第1回目は高校まででどんな情報の学びをしたかまとめておいてください）。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
2	文書作成（1） 基本操作と印刷	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
3	情報と社会（1） 電子メールによるコミュニケーション	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
4	文書作成（2） 表の作成	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
5	文書作成（3） 書式の設定	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
6	情報と社会（2） 個人情報保護	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
7	文書作成（4） 図・画像などの挿入	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
8	文書作成（5） Webブラウザとの連携	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
9	数理・データサイエンス（1） 数理・データサイエンスとは何か？	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
10	情報と社会（3） 情報倫理・情報モラル	準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
11	情報と社会（４） 知的財産権	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
12	文書作成（６） 図の作成と編集	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
13	文書作成（７） 縦書き、PDF変換	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
14	情報と社会（５） ネット犯罪	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
15	数理・データサイエンス（２） 身の周りの数理・データサイエンス	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。	
	定期試験(実施しない)		授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

科目ナンバリング： CCI102
授業形態： 演習
科目名： 情報応用演習【保】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint）の機能について学習します。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	短期大学	課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		学科が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】

1. Microsoft Excelを対象として表計算ソフトの主要な機能を使うことができる。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能を使うことができる。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN:9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	受講ガイダンス、表計算（１） 基本操作と印刷	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は当該回の予習などです（第 1 回目は前期の情報基礎演習などのような情報の学びをしたかまとめておいてください）。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
2	表計算（２） 表の作成	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
3	表計算（３） 基本編集	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
4	表計算（４） 表の書式設定と印刷	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
5	表計算（５） 数式（１） 絶対参照と相対参照、基本関数	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
6	表計算（６） 数式（２） 順位取得、条件判断	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
7	表計算（７） 数式（３） 表参照によるデータ取得、端数処理	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
8	表計算（８） 数式（４） エラー回避、文字列操作	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
9	数理・データサイエンス（１） データは人を騙す	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
10	数理・データサイエンス（２） Excelを使ったデータ処理の基礎	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
11	プレゼンテーション（１） 基本操作と印刷	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
12	プレゼンテーション（２） 図やオブジェクトの挿入	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
13	プレゼンテーション（３） SmartArt、グラフ、表の挿入	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
14	プレゼンテーション（４） 作図機能を用いた複雑な図の作成	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
15	プレゼンテーション（５） 特殊効果と自動実行	準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。	
	定期試験(実施しない)		授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

科目ナンバリング： CCE101
授業形態： 演習
科目名： 英語 【保】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、英語の文法力のさらなる定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
		2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		3. 学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	短期大学	豊かな人間性や主体的に生きる力	
		課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		学科が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

英語の文法を確実に理解し、使うことができる。
まとまった長さの英文を読み、内容を理解することができる。
実用英語技能検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【成績の評価】

小テスト(40%)、宿題(10%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

佐藤哲三、他 English Primer 「大学生の英語入門」(南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・英語のbe動詞	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
2	一般動詞（現在）+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
3	一般動詞（過去）+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
4	進行形 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
5	未来形 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
6	助動詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
7	名詞・冠詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
8	代名詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
9	前置詞 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
10	形容詞・副詞+ Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分)	
11	比較 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分)	
12	命令文・感嘆文 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分)	
13	接続詞() + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分)	
14	不定詞()・動名詞() + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分)	
15	受動態 + Reading & Listening	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： CCE102
授業形態： 演習
科目名： 英語 【保】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力をさらに高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決能力の向上をもめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	1．豊かな人間性や主体的に生きる力
		2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
		3．学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	短期大学	豊かな人間性や主体的に生きる力	
		課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力	
		学科が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】

- 1．基本的な英文法を理解し、使うことができる。
- 2．平易な英文の読解ができる。
- 3．日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
- 4．英検準2級の問題は、ほぼ解くことができる。

【成績の評価】

小テスト(40%)、提出物(10%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は、評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・前期の復習	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
2	完了形（1）- 現在完了 -	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
3	完了形（2）- 未来完了・過去完了 -	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
4	接続詞（2）	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
5	5つの基本文型	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
6	各種疑問文	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
7	不定詞（2）	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
8	Itの特別用法	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
9	現在分詞	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	
10	過去分詞	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分)	
11	動名詞（２）	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
12	関係代名詞（１） - 主格・目的格 -	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
13	関係代名詞（２） - 所有格 -	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
14	仮定法過去	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
15	仮定法過去完了・未来完了	1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（１５分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（１５分） 3. 次回の授業の予習をすること。（３０分）	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： CHH001
授業形態： 講義
科目名： 健康とスポーツ
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	1. 豊かな人間性や主体的に生きる力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
202104～202404	短期大学	豊かな人間性や主体的に生きる力	

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深めることができる。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深めることができる。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・ミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

シンプル衛生公衆衛生学2022（南江堂）
これからの健康とスポーツの科学 第5版（講談社）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
2	健康を取り巻く環境についての理解	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
3	健康情報とヘルスリテラシー	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
4	幼少期～成長期の健康問題	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
5	成人期の健康問題	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
6	高齢期の健康問題	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
7	死生観と生命倫理	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
8	健康と運動・労働	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着す	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		るよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
9	健康と食事・栄養	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
10	健康と休養・睡眠	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
11	喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
12	運動の科学と健康	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
13	体力の評価と分析	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
14	エビデンスに基づいた医療と健康づくり&持続可能な健康づくり	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
15	まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）	毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： CHH002
授業形態： 実習
科目名： 健康とスポーツ実習【保】
担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この授業の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、授業のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動におけるグループワークやプレゼンテーションを通して、スポーツの文化性についての理解を深めます。次に、ゴール型スポーツ（主にアルティメット、フラッグフットボール）、ネット型スポーツ（主にバドミントン、インディアカ）、ターゲット型スポーツ（主にユニカール、グラウンドゴルフ）といった様々なスポーツを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。

なお、この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：bottidj）を活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	短期大学	1．豊かな人間性や主体的に生きる力
		3．学科が示す専門的知識や技能および実践的能力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	短期大学	豊かな人間性や主体的に生きる力	
		学科が示す専門的知識や技能および実践的能力	

【到達目標】

- 1．文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
- 2．新スポーツを企画・実行できる
- 3．スポーツの楽しさを理解し表現できる
- 4．他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【成績の評価】

- ・プレゼンテーションに関する課題 30%
- ・グループワークに関する課題 40%
- ・小レポート 30%

《フィードバックの方法》

プレゼンテーションに関する課題およびグループワークに関する課題については、授業時間中に講評を行うことでフィードバックを実施します。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	【予習】GoogleClassroomに参加し、事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
2	新スポーツ創造の意義	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
3	新スポーツの創造：発案	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分）	
4	新スポーツの創造：計画	【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの実行可能性を検討する。（30分）	
5	新スポーツの創造：修正	【復習】新スポーツの創造に関するプレゼンテーション資料を作成する。（1時間）	
6	新スポーツの創造：発表	【復習】新スポーツの実践に伴う準備事項を検討する。（1時間）	
7	新スポーツの創造：実践	【復習】新スポーツの創造に関する活動を振り返り、レポートにまとめて提出する。（1時間）	
8	アルティメット（1）：ルールを理解する	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
9	アルティメット（2）：競技を楽しむ	【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間）	
10	フラッグフットボール（1）：ルールを理解する	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
11	フラッグフットボール（2）：競技を楽しむ	【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間）	
12	ネット型競技（1）：バドミントンの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
13	ネット型競技（2）：インディアカの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
14	ターゲット型競技（1）：グラウンドゴルフの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
15	ターゲット型競技（2）：ユニカールの実践	【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI121
授業形態： 演習
科目名： 子どもと健康（運動遊び）
担当教員： 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

本授業科目は卒業必修であり、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための必修科目です。

身体を動かす気持ち良さ、身体を動かす楽しさを感じることを通して、自ら運動しようとする意欲を育むことが乳幼児時期には求められます。また乳幼児期は、運動機能が急速に発達する時期であり、多様な動きを身に付けやすい時期でもあります。そのため、乳幼児期は多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れることが大切であり、保育者自身が積極的に幼児と一緒に体を動かし、楽しい雰囲気を作ったりしながら、様々な遊びを伝えていくことが求められます。

この授業ではそのような知識や技術を獲得するために、まずは身体を使った遊びを実際に体験し、その遊びが持つ楽しさを体感していただきます。そして思わず体を動かしたくなり、子どもたちが存分に運動機能を発揮できるような環境作りや、用具の使い方も学びます。さらに後半では模擬保育に取り組んでいただき、幼児の興味関心に基づいた身体を使った遊びを創出できることを目指します。

その模擬保育の取り組みではアクティブ・ラーニング（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、発見学習、問題解決学習）を取り入れ、主体的で協働的な学びを目指していきます。

Google Classroom(クラスコード：wrkn16s)を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	指針・要領の理解	2
		保育に関わる専門的知識の習得	3
		表現技術と創造力	2
		保育を計画する力	3

【到達目標】

1. 乳幼児期の運動発達の特徴を理解することができる
2. 幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できる
3. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる
4. 様々な遊びの場面を、幼児の多様な動きの経験と捉え、援助することができる
5. 幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割を理解することができる

【成績の評価】

- ・ 授業内容まとめ課題...30%
 - ・ 授業態度...30%
 - ・ 模擬保育の発表内容...30%
 - ・ 模擬保育の指導案・振り返りの内容...10%
- レポート等の評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2018年）
厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年）
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）
片山喜章監修『0～5歳児のちょこっとあそび じっくりあそび196』（ひかりのくに、2010年）
片山喜章監修『運動会ラクラク！イキイキ！種目集』（ひかりのくに、2013年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場でクラス担任、運動遊び講師を兼任した経験を活かし、具体的な保育実践例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・幼児体育（運動遊び） の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「幼児体育とは」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
2	運動遊びを通した総合的な育ち<ふれあい遊び>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「ふれあい遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
3	遊具、用具、器具などを使用しない運動遊び<鬼ごっこ>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「様々な鬼ごっこ」を調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
4	遊具、用具、器具を使った運動遊びとその指導技術法 <縄・鉄棒>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「幼児期の縄跳び・鉄棒について」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
5	遊具、用具、器具を使った運動遊びとその指導技術法 <小さなボール編>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「様々なボール遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
6	遊具、用具、器具を使った運動遊びとその指導技術法 <ドッチボールなどの大きなボール編>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「協同的な運動遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
7	遊具、用具、器具を使った運動遊びとその指導技術法 <ボールと多様な動き>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「ボールと他の遊具、用具、器具を組み合わせた遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
8	遊具、用具、器具を使った運動遊びとその指導技術法 <フラフープ>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「フラフープを使った遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる(30分) 	
9	身近なものを使って親子でできる運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「親子で出来る運動遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく(30分) 	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
10	多様な動きを促すサーキット遊び	・予習として、「サーキット遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
11	乳幼児期の運動発達の特徴を踏まえた指導法 < 2歳児編 >	・予習として、「2歳児の発達の特徴」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
12	乳幼児期の運動発達の特徴を踏まえた指導法 < 3歳児編 >	・予習として、「3歳児の発達の特徴」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
13	乳幼児期の運動発達の特徴を踏まえた指導法 < 4歳児編 >	・予習として、「4歳児の発達の特徴」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
14	乳幼児期の運動発達の特徴を踏まえた指導法 < 5歳児編 >	・予習として、「5歳児の発達の特徴」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
15	遊具、用具、器具を使った運動遊びとその指導技術法 < パラバルーン編 >	・予習として、「パラバルーンの遊び方」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として講義内容をノート等にまとめ記録しておく（30分） ・模擬保育の内容を検討し、計画を立てる（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI241
授業形態： 演習
科目名： 子どもと環境
担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

本授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付けることをめざします。また、特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりの発達等についても学びます。

授業の実際では、屋外での自然と関わったり、栽培や工作をしたり、季節の行事について調べるなどの体験的な活動を多く取り入れ、保育者自身の感性を高めていながら、保育実践力を培っていきます。また、活動を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、文字等への関心・感覚」について総合的に学んでいきます。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目及び保育士資格取得の選択必修科目です。
なお、本授業科目では、課題の指示や確認のためにGoogleClassroomも使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	保育に関わる専門的知識の習得	4
		表現技術と創造力	3
		保育を計画する力	3

【到達目標】

1. 乳幼児を取り巻く環境の諸側面（物的・人的・社会的等）と、乳幼児の発達におけるそれらの重要性について理解することができる。
2. 乳幼児期の思考・科学的概念の発達を理解することができる。
3. 「環境」の指導で必要となる感性を養うと共に、自然、社会事象などについての多様な知識を身に付けることができる。
4. 要領・指針に示された「環境」領域のねらいを踏まえ、多彩な保育活動を創出する力を培うことができる。

【成績の評価】

授業内容に関する関心・発表の態度（20%）、課題の提出（40%）、まとめのレポート（40%）

課題については、書く視点を示すとともに、参考となる文章を紹介することで、次時の学習に生かす。フィールドワークやワークショップについては、教員が講評を行うことでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領 解説』（2018年3月）
かこさとし著『こどもの行事 しぜんと生活』小峰書店（2013年）
かがくのとも絵本 福音館書店

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園での経験を活かし、環境と関わる子どもの具体的な姿や事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	環境に関わる保育者の役割	復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(30分) 栽培活動に向けての事前調査（栽培方法の下調べ等）を行い、方法をまとめておくこと(30分)	
2	現代社会の子どもを取り巻く環境の諸側面	予習として、事前周知された授業内容について関連資料を検索し、自分なりにまとめノートに記載しておくこと(30分) 復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(30分)	
3	乳幼児期にふさわしい生活と課題	予習として、事前周知された授業内容について関連資料を検索し、自分なりにまとめノートに記載しておくこと(30分) 復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(30分)	
4	自然との関わりをつくる（1）- 春をみつけよう -（フィールドワーク）	予習として、事前周知された授業内容について関連資料を検索し、自分なりにまとめノートに記載しておくこと(30分) 復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(30分)	
5	自然との関わりをつくる（2）- 植物を育てよう -（実践）	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(30分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(30分)	
6	科学絵本について知見を深める	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) 絵本についての調べ学習を行い、発表準備をすること(20分)	
7	さまざまな環境との出会い - 四季折々の生活 -	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) ワークショップに向けての計画・準備を行うこと(20分)	
8	さまざまな環境との出会い - 春 -（ワークショップ）	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) ワークショップに向けての計画・準備を行うこと(20分)	
9	さまざまな環境との出会い - 夏 -（ワークショップ）	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) ワークショップに向けての計画・準備を行うこと(20分)	
10	さまざまな環境との出会い - 秋 -（ワークショップ）	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るように	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		ノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) ワークショップに向けての計画・準備を行うこと(20分)	
11	さまざまな環境との出会い - 冬 - (ワークショップ)	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) ワークショップに向けての計画・準備を行うこと(20分)	
12	自然との関わりをつくる(3) - 野菜の生長と収穫 - (実践)	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) 野菜通信作成に向けての準備・下調べを行うこと(20分)	
13	自然との関わりをつくる(4) - 野菜通信の作成 -	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) 野菜通信作成に向けての準備・下調べを行うこと(20分)	
14	自然との関わりをつくる(5) - 子どもが自然と関わる姿 -	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ次回以降の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(20分) 栽培物の世話(水やり、草抜き、観察・記録等)を行うこと(20分) ワークショップでの製作物の掲示・片付けなどの管理を行うこと(20分)	
15	社会生活との関わりをつくる(伝統文化・地域社会等) 授業のまとめ(全体の振り返り)	予習及び復習として、授業の内容を自分なりにまとめ後期授業の基礎資料と出来るようにノートに記載しておくこと(30分) 栽培物の世話(プランターの片づけ処理や清掃)を行うこと(30分)	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI161
 授業形態： 演習
 科目名： 子どもと言葉
 担当教員： 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための必修科目です。
 この授業は乳幼児が、豊かな言葉を獲得するため、言葉を使った表現を身に付けるため、乳幼児が想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を学ぶ授業です。
 まずは子どもたちが、言葉を獲得していく過程を模擬的に体験することで理解し、子どもと生活を共にする保育者が担っている役割について解説していきます。また、子どもたちと様々な言葉が会うことを促す保育活動を創出することができるようになるため、模擬保育にも取り組みます。その際、アクティブ・ラーニング(ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、発見学習、問題解決学習)を取り入れ、他者と協動的な学びを目指していきます。
 Google Classroom(クラスコード：rfyca5j)を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	保育に関わる専門的知識の習得	4
		表現技術と創造力	3
		保育を計画する力	3

【到達目標】

1. 人間にとっての言葉の意義や機能を理解することができる。
2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解できる
3. 乳幼児の発達における児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識や技術を身に付けることができる。
4. 言葉の楽しさや美しさに気づき、保育活動を創出する基礎技術、知識、洞察力、保育実践力を身に付けることができる。
5. 模擬保育とその振り返りを通してより良い児童文化財の取り入れ方に改善できる。

【成績の評価】

- ・ 模擬保育 ...35% (教材作り15% 実践10% 指導計画及び振り返り10%)
 - ・ 模擬保育 (絵本の読み聞かせ)...10%
 - ・ 試験(授業内で実施)...40%
 - ・ 授業中の態度...15%
- 試験の結果については、オフィスアワーの時間に解説します。

【使用テキスト】

古橋和夫編著 『保育者のための言語表現の技術 - 子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践 - <第2版>』 (萌文書林、2019年)
 文部科学省編 『幼稚園教育要領』 (フレーベル館、2017年)
 文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』 (フレーベル館、2018年)
 厚生労働省編 『保育所保育指針』 (フレーベル館、2017年)
 厚生労働省編 『保育所保育指針解説』 (フレーベル館、2018年)
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 (フレーベル館、2017年)
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 (フレーベル館、2018年)

【参考文献】

成田朋子編 『新・保育実践を支える言葉』 (福村出版、2018年)

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、幼稚園型こども園での勤務経験を活かし、具体的な保育実践例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション/言葉の意義と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「言葉の意義」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
2	子どもの言葉の育ちとその道すじ < 1歳頃までによく見られる姿 >	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、1歳頃までによく見られる言葉の特徴について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
3	子どもの言葉の育ちとその道すじ < 1歳から2歳頃によく見られる姿 >	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、1歳から2歳頃によく見られる言葉の特徴について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
4	子どもの言葉の育ちとその道すじ < 2歳から3歳頃によく見られる姿 >	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、2歳から3歳頃によく見られる言葉の特徴について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
5	言葉遊びなどの言葉を豊かにする実践についての基礎的な知識(多様な経験)	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「言葉が豊かとは？」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
6	言葉の楽しさや美しさと、その具体	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、自身が思う美しい言葉と楽しい言葉を集めておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
7	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、言葉を豊かにする実践について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめしておく(30分) ・ペーパーサートの作成(30分) 	
8	乳幼児の発達における児童文化財の意義と、基本的な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「児童文化財」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有 	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分） ・ペープサートの作成（30分）	
9	児童文化財（絵本・物語・紙芝居など）を活用する基礎技術	・予習として、絵本と紙芝居の違いについて調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分） ・ペープサートの作成（30分）	
10	保育活動を創出する基礎技術と保育実践 ＜基礎技術の獲得＞	・予習として、保育者がペープサートなどを演じる際に配慮するべきことを調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
11	保育活動を創出する基礎技術と保育実践 ＜保育計画の作成＞	・予習として、自身が児童文化財を扱っている保育実践を動画に撮り、自己評価を行っておくこと（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
12	保育活動を創出する基礎技術と保育実践 ＜評価の仕方＞	・予習として、領域「言葉」に焦点を当てて保育実践を振り返る際のポイントについて調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
13	保育活動を創出する基礎技術と保育実践 ＜省察的实践＞	・予習として、領域「言葉」に焦点を当てた自身の保育実践の課題を明確化しておくこと（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
14	紙芝居の演じ方と絵本の読み聞かせ	・予習として、紙芝居の演じ方と絵本の読み聞かせについて調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
15	学びの振り返り・質疑・まとめ	・予習として、これまでの講義を振り返り、自身が理解できていない部分を明確にしておく（30分） ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
	定期試験（実施しない）		

科目ナンバリング： CUI171
授業形態： 演習
科目名： 子どもと造形表現 【保A】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。描画材料（水彩絵具、クレパス、マーカー等）の組成、様々な粘土や紙の特性などの子どもの造形表現に関わる専門的知識や思考力を学習しながら、基本的な描法や造形、ハサミやカッターナイフなどの道具の基本的な使い方など技能を学習します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を身につけます。さらに子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。加えて、本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目です。なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、kyfn43yです。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	6
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. 保育に関する専門的な知識を習得しながら、子どもたちの造形表現活動に結びつけることができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら準備やプロセスを計画し、評価することができる。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況80%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

樋口一成 編著『幼児造形の基礎 ー乳幼児の造形表現と造形教材ー』（萌文書林 2018年）
山口 真著『決定版！日本のおりがみ12か月』（ナツメ社 2016年）

【参考文献】

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方、絵の具等の材料、用具の説明 折り紙の練習 「つばき」「立体ハート」	予習として、本授業のシラバス内容について確認しておくこと。（30分） 復習として、再度折り紙の練習をしておくこと。（30分）	
2	子どもの発達段階と表現、モダンテクニック 「ドリッピング」「マーブリング」	予習として、モダンテクニックの「ドリッピング」「マーブリング」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
3	子どもの発達段階と表現、モダンテクニック 「スクラッチ」「パチック」	予習として、モダンテクニックの「スクラッチ」「パチック」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
4	モダンテクニック 「ステンシル」「スタンプ」	予習として、モダンテクニックの「ステンシル」「スタンプ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
5	モダンテクニック 「にじみ」「デカルコマニー」	予習として、モダンテクニックの「にじみ」「デカルコマニー」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
6	モダンテクニック 「スパッタリング」「フロッタージュ」	予習として、モダンテクニックの「スパッタリング」「フロッタージュ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
7	モダンテクニック 「コラージュ」	予習として、モダンテクニックの「コラージュ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
8	大学祭階段装飾 「ほいくのくに」の6文字を含めた装飾デザイン	予習として、「ほいくのくに」の6文字を含めた装飾案を考え、下書きをしておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
9	折り紙の練習 「うさぎ」「いちご」「つばめ」	予習内容：なし 復習として、再度折り紙の練習をしておくこと。（1時間）	
10	折り紙の練習 と小テスト 「カタツムリ」「ペンギン」	予習として、折り紙課題のの練習をしておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
11	大学祭ポスター製作 設定されたテーマに沿って、アイデアを6点以上練る	予習として、大学祭「ほいくのくに」のテーマにちなんだアイデア展開をしておくこと。（30分） 復習として、アイデア展開した中から1番良いと思われるデザイン1点決めること。（30分）	
12	大学祭ポスター製作	予習として、アイデア展開した中から1番良	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	アイデアが決まったら、ケント紙に下描きする 色彩計画を立てる	いと思われるデザインをさらに大小の変化や構成をブラッシュアップすること。また、ポスターとしてどこに文字を入れるかを考える。（30分） 復習として、下描きしたもののどこに何色を塗るか計画を立てる。（30分）	
13	大学祭ポスター製作 アクリル絵の具で着彩 隣同士の色調だけでなく、全体を見る目を養う	予習として、広い面積、明るい色の部分から色を塗っていく着彩計画を立てる。（30分） 復習として、部分だけでなく全体を見ながら再度着彩計画を考える。（30分）	
14	大学祭ポスター製作 アクリル絵の具で着彩 画面全体の色調に留意しながら、彩色する	予習として、広い面積、明るい色の部分から色を塗っていく着彩計画を立てる。（30分） 復習として、部分だけでなく全体を見ながら再度着彩計画を考える。（30分）	
15	大学祭ポスター製作 アクリル絵の具で着彩 塗り残しがないように細部までアクリル絵の具で彩色する 作品講評会	予習として、細部の塗り残した部分を確認し、描いておく。（30分） 復習として、友達が描いたそれぞれの作品の中で目を引く絵のどこがすばらしいかを考え書き留めておくこと。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI171
授業形態： 演習
科目名： 子どもと造形表現 【保B】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。描画材料（水彩絵具、クレパス、マーカー等）の組成、様々な粘土や紙の特性などの子どもの造形表現に関わる専門的知識や思考力を学習しながら、基本的な描法や造形、ハサミやカッターナイフなどの道具の基本的な使い方など技能を学習します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を身につけます。さらに子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。加えて、本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目です。なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、kyfn43yです。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	6
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. 保育に関する専門的な知識を習得しながら、子どもたちの造形表現活動に結びつけることができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら準備やプロセスを計画し、評価することができる。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況80%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

樋口一成 編著『幼児造形の基礎 -乳幼児の造形表現と造形教材-』（萌文書林 2018年）
山口 真著『決定版！日本のおりがみ12か月』（ナツメ社 2016年）

【参考文献】

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方、絵の具等の材料、用具の説明 折り紙の練習 「つばき」「立体ハート」	予習として、本授業のシラバス内容について確認しておくこと。（30分） 復習として、再度折り紙の練習をしておくこと。（30分）	
2	子どもの発達段階と表現、モダンテクニック 「ドリッピング」「マーブリング」	予習として、モダンテクニックの「ドリッピング」「マーブリング」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
3	子どもの発達段階と表現、モダンテクニック 「スクラッチ」「パチック」	予習として、モダンテクニックの「スクラッチ」「パチック」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
4	モダンテクニック 「ステンシル」「スタンプ」	予習として、モダンテクニックの「ステンシル」「スタンプ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
5	モダンテクニック 「にじみ」「デカルコマニー」	予習として、モダンテクニックの「にじみ」「デカルコマニー」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
6	モダンテクニック 「スパッタリング」「フロッタージュ」	予習として、モダンテクニックの「スパッタリング」「フロッタージュ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
7	モダンテクニック 「コラージュ」	予習として、モダンテクニックの「コラージュ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や注意すべき点について記述しておくこと。（30分）	
8	大学祭階段装飾 「ほいくのくに」の6文字を含めた装飾デザイン	予習として、「ほいくのくに」の6文字を含めた装飾案を考え、下書きをしておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
9	折り紙の練習 「うさぎ」「いちご」「つばめ」	予習内容：なし 復習として、再度折り紙の練習をしておくこと。（1時間）	
10	折り紙の練習 と小テスト 「カタツムリ」「ペンギン」	予習として、折り紙課題のの練習をしておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
11	大学祭ポスター製作 設定されたテーマに沿って、アイデアを6点以上練る	予習として、大学祭「ほいくのくに」のテーマにちなんだアイデア展開をしておくこと。（30分） 復習として、アイデア展開した中から1番良いと思われるデザイン1点決めること。（30分）	
12	大学祭ポスター製作	予習として、アイデア展開した中から1番良	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	アイデアが決まったら、ケント紙に下描きする 色彩計画を立てる	いと思われるデザインをさらに大小の変化や構成をブラッシュアップすること。また、ポスターとしてどこに文字を入れるかを考える。（30分） 復習として、下描きしたもののどこに何色を塗るか計画を立てる。（30分）	
13	大学祭ポスター製作 アクリル絵の具で着彩 隣同士の色調だけでなく、全体を見る目を養う	予習として、広い面積、明るい色の部分から色を塗っていく着彩計画を立てる。（30分） 復習として、部分だけでなく全体を見ながら再度着彩計画を考える。（30分）	
14	大学祭ポスター製作 アクリル絵の具で着彩 画面全体の色調に留意しながら、彩色する	予習として、広い面積、明るい色の部分から色を塗っていく着彩計画を立てる。（30分） 復習として、部分だけでなく全体を見ながら再度着彩計画を考える。（30分）	
15	大学祭ポスター製作 アクリル絵の具で着彩 塗り残しがないように細部までアクリル絵の具で彩色する 作品講評会	予習として、細部の塗り残した部分を確認し、描いておく。（30分） 復習として、友達が描いたそれぞれの作品の中で目を引く絵のどこがすばらしいかを考え書き留めておくこと。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI173
授業形態： 演習
科目名： 子どもと造形表現 【保A】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格取得の選択必修科目です。保育者としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得します。そして表現力や立体感覚を身につけることを主としています。

なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通して行います。クラスコードは、ojsebd5 です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	6
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. 造形表現の発展的な知識と技能を身につけることができる。
2. 素材や画材の特性を知り、色彩感覚や立体感覚を身につけることができる。
3. 独創的で工夫した技術や表現などを発展させることができる。
4. 造形教材の準備や子どもが表現するプロセスを理解し、造形教育を計画することができる。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（70%）、折り紙小テスト（10%）、授業態度・意欲・準備物（20%）で評価します。課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

山口 真著『決定版！日本のおりがみ12か月』（ナツメ社 2016年）

【参考文献】

樋口一成 編著 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』（萌文書林 2018年）
奥 美佐子 著 『3・4・5歳児の造形あそび』（ひかりのくに 2017年）
村田 夕紀、内本 久美 著 『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』（ひかりのくに 2019年）
保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）
幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 授業の内容と進め方の説明 折り紙 カブトムシ、プチマト、おばけ	予習として、この授業のシラバスについて内容を確認しておくこと。（30分） 復習として、授業で行った折り紙を再度練習すること。（30分）	
2	染紙 和紙・インクを使った染紙	予習として、染紙についてインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、その技法や表現の仕方について書き留めておくこと。（30分）	
3	ドリームキャッチャー ドリームキャッチャーの土台製作	予習として、ドリームキャッチャーとは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの土台の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
4	ドリームキャッチャー たこ糸の編み込み	予習として、ドリームキャッチャーのたこ糸の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
5	ドリームキャッチャー 仕上げ装飾	予習として、ドリームキャッチャーの意図の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
6	折り紙 ライオン、キリン、リス	予習として、テキストを見て課題の折り方を確認しておくこと。（30分） 復習として、授業で行った折り紙を再度練習すること。（30分）	
7	折り紙 てぶくろ、かみとんぼ、折り紙の小テスト	予習として、テキストを見て課題の折り方を確認しておくこと。（30分） 復習として、授業で行った折り紙を再度練習しておくこと。（30分）	
8	かぶりもの製作 造形計画	予習として、前もって出された課題に対して、どのようなかぶりものにするかモチーフを考え、資料を用意しておくこと。（30分） 復習として、紙袋からどのように変形させて本体を製作するか構造を再度確認しておくこと。（30分）	
9	かぶりもの製作 本体の製作	予習として、造形計画を再度確認してのりしろ部分の細かな作業を確認しておくこと。（30分） 復習として、細部を確認し、補強しておくこと。（30分）	
10	かぶりもの製作 パーツの製作	予習として、耳や角等の接続パーツの造形計画を立てておくこと。（30分） 復習として、パーツを本体に接着しておくこと。（30分）	
11	かぶりもの製作 装飾	予習として、装飾として色彩計画を立て。材料や絵の具を用意しておくこと（30分） 復習として、細部を確認し、修正や加筆しておくこと。（30分）	
12	かぶりもの製作 仕上げ	予習として、仕上げとしての細部を確認し、必要な仕上げ材料や絵の具を用意しておくこと（30分） 習として、被り物製作の作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	紙版画 下絵製作	予習として、紙版画のモチーフを何にするかを考え資料を用意しておくこと。また、1枚の画面としてどのような構成にするかアイデア展開しておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
14	紙版画 版の製作	予習として、版となるモチーフのデザインを再度確認し、バック画面とのバランスを考えておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
15	紙版画 刷り・仕上げ作業	予習として、メインとなる版の部分とバックの画面構成を再度確認し修正しておくこと。（30分） 復習として、紙版画の製作工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI173
授業形態： 演習
科目名： 子どもと造形表現 【保B】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格取得の選択必修科目です。保育者としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得します。そして表現力や立体感覚を身につけることを主としています。

なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通して行います。クラスコードは、ojsebd5 です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	6
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. 造形表現の発展的な知識と技能を身につけることができる。
2. 素材や画材の特性を知り、色彩感覚や立体感覚を身につけることができる。
3. 独創的で工夫した技術や表現などを発展させることができる。
4. 造形教材の準備や子どもが表現するプロセスを理解し、造形教育を計画することができる。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（70%）、折り紙小テスト（10%）、授業態度・意欲・準備物（20%）で評価します。課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

山口 真著『決定版！日本のおりがみ12か月』（ナツメ社 2016年） ISBN 978-4-8163-6004-6

【参考文献】

樋口一成 編著 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』（萌文書林 2018年）
奥 美佐子 著 『3・4・5歳児の造形あそび』（ひかりのくに 2017年）
村田 夕紀、内本 久美 著 『2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ』（ひかりのくに 2019年）
保育所保育指針（厚生労働省、2017年3月告示）
幼稚園教育要領（文部科学省、2017年3月告示）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 授業の内容と進め方の説明 折り紙 カブトムシ、プチマト、おばけ	予習として、この授業のシラバスについて内容を確認しておくこと。（30分） 復習として、授業で行った折り紙を再度練習すること。（30分）	
2	染紙 和紙・インクを使った染紙	予習として、染紙についてインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、その技法や表現の仕方について書き留めておくこと。（30分）	
3	ドリームキャッチャー ドリームキャッチャーの土台製作	予習として、ドリームキャッチャーとは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの土台の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
4	ドリームキャッチャー たこ糸の編み込み	予習として、ドリームキャッチャーのたこ糸の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
5	ドリームキャッチャー 仕上げ装飾	予習として、どのような装飾仕上げにするか考えて材料を用意すること。（30分） 復習として、装飾仕上げの修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
6	折り紙 ライオン、キリン、リス	予習として、テキストを見て課題の折り方を確認しておくこと。（30分） 復習として、授業で行った折り紙を再度練習すること。（30分）	
7	折り紙 てぶくろ、かみとんぼ、折り紙の小テスト	予習として、テキストを見て課題の折り方を確認しておくこと。（30分） 復習として、授業で行った折り紙を再度練習しておくこと。（30分）	
8	かぶりもの製作 造形計画	予習として、前もって出された課題に対して、どのようなかぶりものにするかモチーフを考え、資料を用意しておくこと。（30分） 復習として、紙袋からどのように変形させて本体を製作するか構造を再度確認しておくこと。（30分）	
9	かぶりもの製作 本体の製作	予習として、造形計画を再度確認してのりしる部分の細かな作業を確認しておくこと。（30分） 復習として、細部を確認し、補強しておくこと。（30分）	
10	かぶりもの製作 パーツの製作	予習として、耳や角等の接続パーツの造形計画を立てておくこと。（30分） 復習として、パーツを本体に接着しておくこと。（30分）	
11	かぶりもの製作 装飾	予習として、装飾として色彩計画を立て。材料や絵の具を用意しておくこと（30分） 復習として、細部を確認し、修正や加筆しておくこと。（30分）	
12	かぶりもの製作 仕上げ	予習として、仕上げとしての細部を確認し、必要な仕上げ材料や絵の具を用意しておくこと（30分） 復習として、被り物製作の作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
13	紙版画 下絵製作	予習として、紙版画のモチーフを何にするかを考え資料を用意しておくこと。また、1枚の画面としてどのような構成にするかアイデア展開しておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
14	紙版画 版の製作	予習として、版となるモチーフのデザインを再度確認し、バック画面とのバランスを考えておくこと。（1時間） 復習内容：なし	
15	紙版画 刷り・仕上げ作業	復習として、紙版画の製作工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保A】
担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2．自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保A】
担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2．自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保B】
担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保B】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保B】
担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI181

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保B】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育所、幼稚園、認定こども園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育所、幼稚園、認定こども園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽表現の基本的知識・技術を習得し、感性を豊かにすることをめざします。本授業科目は保育学科の卒業必修科目です。また幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisigma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2．自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の専門的知識と技術の基礎を身につけることができる。
2. 実際に演奏することで表現することの楽しさを実感することができる。
3. 他者の音楽表現を聴くことで、イメージを豊かにすることができる。
4. 音楽表現の基礎技能を基盤とした保育実践力と創造力を身につけることができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価します。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)。

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～音楽経験の調査と演奏曲目の決定～	ピアノ演奏および弾き歌いの技術向上のためには毎日のコンスタントな練習が最も効果的です。後期開講の当該科目にも含め、年間を通して毎日練習し、その成果を持って次の授業に臨むようにしてください。配布した基礎知識に関する課題に記入し次回に提出する（毎日合計20分以上）。	
2	楽譜に関する基礎知識の確認 歌のレパートリーを増やそう ～知っている歌の旋律を弾く～ ～旋律を弾きながら歌う～	読譜に慣れるための練習シートに記入して次回に提出する。季節の歌(春夏)について調べ、歌詞も覚えて歌えるようにする。授業で扱った旋律に伴奏をつけて練習する。（毎日合計20分以上）	
3	歌のレパートリーを増やそう ～伴奏の練習から弾き歌いへ～	練習した弾き歌いを定着させてレパートリーとして保つ。（毎日20分以上）	
4	課題曲の理解 ～レベルに応じた伴奏の決定と練習～	課題曲（旋律・伴奏・弾き歌い）に取り組む。（毎日20分以上）	
5	発表予定課題曲の練習 ～歌とピアノのバランスを考える～	課題曲を完成する。（毎日20分以上）	
6	中間発表会(1) ～1-2曲を発表し、人前での弾き歌いを体験する～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて、残りの課題曲を練習する。余裕があれば、課題曲以外にも取り組む。（毎日合計20分以上）	
7	課題曲の練習 ～自由曲について今後の方針を決定する～	決められた曲を練習する。それ以外の楽曲にも目を向け、旋律だけでも弾いてみる。（毎日合計20分以上）	
8	発表予定弾き歌いの完成 ～歌の表現を深める～	授業時に指摘されたところを改善できるように練習する。（毎日20分以上）	
9	人前で弾き歌いをする練習 ～歌唱指導の基礎～	友達の演奏を聞いて気付いたことや自分の演奏の問題点をノートに書き出してみる。それに加えて、弾き歌いだけでなく歌唱指導の要素が入った場合、自分にはどのような技術が不足しているか振り返る。発表予定の曲について完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
10	中間発表会(2) ～人前での演奏において平常心を保つことや歌と伴奏の調和の達成をめざす～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した課題曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて練習する。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて ～演奏する曲の決定と練習～	決められた曲を練習する。（毎日20分以上）	
12	発表会に演奏予定の曲を完成する	一層完成度を高め、明るい表現やバランスの取れた弾き歌いをめざす。発表会に演奏予定以外の曲にも目を向ける。（毎日合計20分以上）	
13	人前で自分を表現できる練習 ～歌唱指導の基礎～	発表予定の曲について安定した演奏ができるように練習する。歌唱指導の反省点や学びについて記録しておく。（毎日合計20分以上）	
14	まとめの発表会	担当教員からの講評をもとに振り返る。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		発表した課題曲や自由曲、これまでに取り組んだ曲をレパートリーとして保つ。 後期課題曲より1曲以上を選び、練習する。 （毎日合計20分以上）	
15	後期「子どもと音楽表現II」課題曲の研究とレベルに応じた伴奏の決定	後期課題曲を含め、レパートリーを増やすことを心がけて夏休みを過ごし、「子どもと音楽表現II」の授業でその成果を披露できるように計画的に練習を続ける。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保A】
担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保A】
担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保A】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182
 授業形態： 演習
 科目名： 子どもと音楽表現 【保B】
 担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
 発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
 保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
 幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保B】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182
授業形態： 演習
科目名： 子どもと音楽表現 【保B】
担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI182

授業形態： 演習

科目名： 子どもと音楽表現 【保B】

担当教員： 出木浦 孝(DEKIURA Takashi)

【授業の紹介】

子どもと音楽表現Iで修得した音楽表現の基礎的な知識を深めるとともに、レパートリーを増やし、音楽表現技術のさらなる向上をめざします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして模擬的な歌唱指導に取り組みます。本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、及び保育士資格取得のための選択必修科目です。なお、学生への連絡等はGoogle Classroomを通じて行います。クラスコードはisgma74です。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	温かさ	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		表現技術と創造力	5
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 音楽表現の指導法に関する理論的基盤を習得することができる。
2. さまざまな表現を体験することによって、表現技術の多様性に気づくことができる。
3. 協働して表現することによって、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 保育実践力をさらに高めることができる。
5. 教材研究により音楽の役割を理解することができる。

【成績の評価】

中間発表会及びまとめの発表会(90%)、日常の取り組み(10%)で評価する。
発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックする。

【使用テキスト】

「子どものうた村 保育の木」(小川宜子 他編集、ドレミ楽譜出版社、2008年)

【参考文献】

上記テキスト以外の子どもの歌の楽譜(担当教員よりその都度指示する)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション ～「子どもと音楽表現I」における課題を各自で振り返り、本授業でめざすことを明確化した上で楽曲に取り組む～	「子どもと音楽表現I」で身に付けた「毎日のコンスタントな練習」を継続し、音楽表現技術のさらなる向上に努める。 また、観察参加や大学祭で子どもたちと触れ合う機会にうたやリズムなど、子どもの音楽的表現に注目し、気付いたことをノートに記録する。（毎日合計20分以上）	
2	夏休みに練習した曲について余裕を持って弾き歌いできるように完成度を高める	弾き歌いの練習。 課題曲に取り組む。 季節の歌(秋冬)について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
3	人前で演奏し、その場にいる人から共感を得ることができるような表現をめざす ～グループの友達と相互に高め合うことができるように活動を工夫する～	弾き歌いの練習。 発表会に向けて課題曲・自由曲の弾き歌いがより表現豊かになるように取り組む。友達の演奏から新しく発見できたことをノートに書き出し、自分の演奏に反映させる。 発表会に向けて完成度を高める。（毎日合計20分以上）	
4	中間発表会(1) ～夏休みの成果を振り返る～	担当教員からの講評をもとに振り返る。 発表した課題曲をレパートリーとして保つ。 次回発表会に向けて曲を選択し練習する。 課題曲のすべてが合格した者は、これ以後、弾き歌い自由曲と共にピアノ曲も選択して練習を開始する。（毎日合計20分以上）	
5	ピアノ演奏法について各自の問題点を再確認、歌についても子どもに伝わる表現になっているかを考え、担当教員の指導を参考に練習に反映する	授業で扱った曲について指摘されたところが修正できるように練習を工夫する。動物の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
6	各自が取り組む曲についてピアノや歌の問題点を修正しながら安定した弾き歌いになるように練習する	完成度を高めるために練習法を工夫する。生活の歌について調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
7	発表会で演奏する曲を完成する	弾き歌いの練習。手遊び歌について調べ、動作と共に歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
8	人前で演奏する練習 ～子どもにもわかりやすい表現になっているか相互に話し合う～	弾き歌いの練習。 歌とピアノのバランス、歌詞に合った表現に気をつける。「ほいくのくに」で発見した子どもの言動に見られる音楽的表現をノートに書き留め、次々回の授業で発表する。（毎日合計20分以上）	
9	中間発表会(2) ～弾き歌い課題曲・自由曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つ。次回発表会に向けて曲を選択し練習する。（毎日合計20分以上）	
10	新しく練習した曲の指導を受ける ～弾き歌いのレパートリーを豊かに～	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。行事に関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
11	まとめの発表会に向けて演奏する曲を再確認・決定する	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。クリスマスに関係した歌を調べ、歌詞を覚えて歌えるようにする。（毎日合計20分以上）	
12	弾き歌いのレパートリーを豊かに ～今後どのような曲を弾いていきたいか考	弾き歌いの練習・ピアノ曲の練習。発表会に向けて指摘された部分を修正できるように工	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	え、担当教員と各自のレベルにあった楽譜について相談する～	夫して練習する。（毎日合計20分以上）	
13	グループ内発表会 ～前期「子どもと音楽表現」と併せて9ヶ月間の学びを振り返る～	発表会に向けて安定した演奏になるように時間をかけて練習する。（毎日20分以上）	
14	まとめの発表会 ～弾き歌い課題曲・自由曲・ピアノ曲～	担当教員からの講評をもとに振り返る。発表した曲をレパートリーとして保つため各自で練習する。（毎日合計20分以上）	
15	弾き歌いのまとめ ～実習に向けた準備、就職活動におけるピアノの必要性～	1年間取り組んできた弾き歌い・ピアノの今後も維持していくために、鍵盤に触れる機会をなるべく多く取る。（毎日20分以上）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI111
授業形態： 演習
科目名： 保育内容総論
担当教員： 有馬 則子 (ARIMA Noriko)

【授業の紹介】

教育・保育の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の解説を読み解きながら、幼児の自発的な活動を通しての総合的な指導の在り方を学んでいきます。また、グループワークでの事例演習を通して幼児を理解する目を養い、実態に応じてカリキュラム・マネジメントできる豊かな保育実践的能力を培っていきます。

本授業科目は、保育学科の卒業必修科目です。加えて、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目でもあります。また、本授業科目の単位を認定されていることが、1年次後期の「保育実習」を履修するための条件となっています。

授業の連絡にあたりGoogle Classroomを使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	使命感	2
		指針・要領の理解	4
		保育に関わる専門的知識の習得	4

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容を理解できる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、子ども理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。

【成績の評価】

- ・事例演習やグループワークを含め、授業への参加意欲・態度（20%）、学習シート等への記入や課題提出（40%）、定期試験（40%）を合わせて総合的に評価します。
- ・授業の振り返りや学習シートは添削して返却したり、以降の授業で活用したりすることでフィードバックします。
- ・15回の授業のうち、12回以上の出席が必要です。なお授業態度として、授業開始のチャイムが鳴り終わるまでに着席していることと、長時間の居眠り等が無いことが出席の条件です。

【使用テキスト】

- ・乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容総論』（神長美津子・津金美智子・田代幸代 編著、光生館、2018年3月30日初版発行）
- ・幼稚園教育要領解説（文部科学省、平成30年3月）
- ・保育所保育指針解説（厚生労働省、平成30年3月）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省、平成30年3月）

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園で、教員や園長として教育・保育に携わった経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 保育の基本とその内容	復習として、授業内容を自分なりにまとめておくこと(1時間)。	
2	生きる力を育むことの必要性	予習として、事前に出された課題について調べ、事前配付された学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
3	幼児教育において育みたい資質・能力(三つの柱)及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)	予習として、指定する教科書の指示したページに目を通し、まとめたことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
4	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の内容の考え方	予習として、事前に出された課題について調べ、授業時にグループワークの中で発表できるようにしておくこと(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
5	保育内容の変遷	予習として、事前に出された課題について調べ、授業時にグループワークの中で発表できるようにしておくこと(40分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(20分)。	
6	遊びを通した総合的な指導	予習として、事前に出された課題について調べ、授業時にグループワークの中で発表できるようにしておくこと(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
7	幼児期の教育と小学校教育の接続・連携	予習として、専門用語などの意味を調べ、配布されている事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
8	子ども理解に基づく保育の展開	予習として、専門用語などの意味を調べ、配布されている事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
9	指導計画作成の考え方と作成の実際	予習として、専門用語などの意味を調べ、配布された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
10	指導計画の評価・改善と保育者の役割、園行事の考え方	予習として、指定する教科書の指示したページに目を通し、まとめたことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。 復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
11	「ひと」「もの」「こと」との関わりを深め	予習として、指定する教科書の指示したペー	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	る環境の構成と教材研究	ジに目を通し、まとめたことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
12	保育記録を書くことの意義と実際	予習として、専門用語などの意味を調べ、配布された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
13	子ども理解を深める保育者の基本的な姿勢（事例演習）	予習として、事前に出された課題について調べ、授業時にグループワークの中で発表できるようにしておくこと(30分)。復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
14	子ども理解に基づく保育の展開（事例演習）	予習として、事前に出された課題について調べ、授業時にグループワークの中で発表できるようにしておくこと(30分)。復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
15	保育の現状と課題	予習として、指定する教科書の指示したページに目を通し、まとめたことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(30分)。復習として、授業内容に関する教科書等に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(30分)。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： CUI222
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 健康
担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

幼稚園教育要領等に示された保育内容健康でのねらい及び内容について、専門領域との関連から幼稚園教育等において育みたい資質・能力を理解する。加えて、具体的な指導場面を想定して保育案等を作成する能力の向上のため、幼児の発達や成長の姿の意味を理解する。さらに、健康に関する多彩な保育活動を創出する基礎技能（ICT等を含む）を基盤とした保育実践力（知識、技法、態度を含む）を向上させる。本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目でもある。本授業科目では、課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1．子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
202104～202404	保育学科	望ましい行動	1
		指針・要領の理解	2
		洞察・判断する力	3
		保育を計画する力	4

【到達目標】

- 1．幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された教育及び保育の基本を踏まえ、保育内容健康のねらい及び内容（指導上の留意点を含む）や幼児の発達や学びの過程を全体的に理解することができる。
- 2．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育案を構想する方法（評価を含む）を身に付けることができる。
- 3．近年の動向を踏まえた模擬的な実践活動とその振り返りを通じて、改善や資質向上に向けた視点を身に付けることができる。
- 4．他の内容との関連性や小学校の教科等とのつながり、多様な教材や情報機器の活用に基づいた実りある保育実践を創出するための洞察・判断力などを身に付けることができる。

【成績の評価】

授業時の学習シートの内容（30％）、指導案の作成・提出（30％）、最終のまとめ（40％）で評価する。学習シート、指導案、最終のまとめの振り返りは、次回の授業等の時間を用いてフィードバックする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

【参考文献】

適宜紹介する。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	幼稚園教育要領等における保育内容 - 健康について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
2	保育内容 - 健康におけるねらいについて	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
3	保育内容 - 健康における指導上の留意点について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
4	保育内容 - 健康を視点とした幼稚園教育等における評価について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
5	保育内容 - 健康における幼児期の経験および小学校との接続について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
6	現代社会における幼児の健康について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
7	保育内容 - 健康における幼児の経験について（ICT等の活用法理解を含む）	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
8	保育内容 - 健康における教材研究について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
9	保育内容 - 健康における指導案作成について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
10	指導案にもとづいた保育実践について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		行う（30分）。	
11	保育実践の反省と課題について（1）（教材活用の振り返り）	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
12	保育実践の反省と課題について（2）（保育の展開の振り返り）	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
13	保育現場で行われている保育実践について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
14	様々な保育実践の共有について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を授業前に読み、分からない言葉を調べ、ノートにまとめる（30分）。 復習内容：指導案作成準備および教材作成を行う（30分）。	
15	最終のまとめ（要点の整理と質疑応答）	予習内容：これまでの学習シートを振り返り、最終のまとめに備える（30分）。 復習内容：最終のまとめを振り返る（30分）。	
	定期試験（実施しない）		

科目ナンバリング： CUI231
 授業形態： 演習
 科目名： 保育内容 - 人間関係
 担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

本授業科目は、領域「人間関係」における保育のねらい及び内容を理解し、子どもたちの人と関わる力を育む保育について考えます。人間は、誰かとつながることで生かされている存在です。つまり、人間関係は「生きる力」の原点と言ってもよいでしょう。人間関係が希薄化する現代社会の中、幼稚園や保育所は、乳幼児期の子どもたちにとって、人との関わりを経験する貴重な場になりつつあります。この窮状に対して、保育者には子どもたちに「人と関わる力」を育てること、子どもたちの人間関係を家庭や園から地域に向けて押し広げていくことが求められています。子どもたちがより豊かで強くつながり合える人間関係をつくり、それを社会のなかで役立て、幸福に生きることを実現させるために、乳児保育における3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児における5領域の視点から総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得します。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得のための必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	望ましい行動	1
		温かさ	1
		協働・連携する力	2
		指針・要領の理解	2
		洞察・判断する力	2
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. 子どもの「人と関わる力」を育てることの重要性を理解し、領域「人間関係」に基づく幼稚園・保育所の役割を果たそうと思う使命感・倫理観を高めることができる。
2. 長期的な視点に立って、子どもの「基礎的な人と関わる力」を育てようとする子ども-保育者関係を構築できる人間性を育むことができる。
3. 領域「人間関係」に関するねらいと内容に関する専門的知識を身に付け、子どもの「人と関わる力」の発達とその育て方についての思考力を深めることができる。
4. 子どもの「人と関わる力」を育て伸ばすための保育実践力を発揮できるようになる。

【成績の評価】

成績は、毎回の授業内容のまとめ（10%）と定期試験の結果（90%）で総合的に評価します。授業内容のまとめは毎回点検することでフィードバックします。

【使用テキスト】

田代和美・榎本眞実編著『演習 保育内容「人間関係」 - 基礎的事項の理解と指導法 -』（建帛社、2019年）

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション・私たちにとっての人間関係とは	予習内容：履修ガイド及びシラバスを予め確認する（30分）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（30分）。	計1時間
2	現代の乳幼児を取り巻く人間関係	予習内容：テキストを読んで、予習課題に取り組む（30分）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（30分）。	計1時間
3	領域「人間関係」のねらい及び内容及び評価	同上	計1時間
4	0歳児の人との関わりと保育	同上	計1時間
5	1歳児の人との関わりと保育	同上	計1時間
6	2歳児の人との関わりと保育	同上	計1時間
7	3歳児の遊びと人間関係	同上	計1時間
8	4歳児の遊びと人間関係	同上	計1時間
9	5歳児の遊びと人間関係	同上	計1時間
10	特別な支援を必要とする子どもの人間関係を支える	同上	計1時間
11	子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係	同上	計1時間
12	育ちを支える保育者同士の人間関係	予習内容：テキストを読んで、予習課題に取り組む（30分）。 復習内容：本授業の内容とロールプレイの感想をまとめ、提出する（30分）。	計1時間
13	子どもの人間関係を育む学級経営	同上	計1時間
14	指導案作成から保育へ：人間関係力を育てる	同上	計1時間
15	2年間の振り返り：人間関係力を育てるグループワーク	予習内容：なし。 復習内容：グループワークの内容をまとめ、提出する（1時間）。	計1時間
	定期試験(実施する)		合計15時間

科目ナンバリング： CUI242
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 環境
担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

領域「環境」では、子どもが、「周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化など）に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことをめざします。そのため、保育者には、乳幼児期にふさわしい環境づくりや子どもの育ちや学びをとらえる力量が求められます。15回の授業の前半では、領域「環境」に関する専門的知識を学び、後半では、具体的指導場面での事例や演習を通して、子どもの育ちを支える保育の構想力や実践力を培っていきます。

子どもを取り巻く環境や乳幼児保育・教育の動向、今日的課題などについても常に関心をもっておく必要があります。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目です。

なお、本授業科目では課題の指示や確認のためにGoogleClassroomも使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	指針・要領の理解	2
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		洞察・判断する力	3
		保育を計画する力	3

【到達目標】

- 1．保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示された乳幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
- 2．乳幼児の発達や学びの過程を理解し、乳幼児期にふさわしい遊びや生活をつくるための基礎的知識や技能を身に付け、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を培うことができる。
- 3．領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育者としての資質向上に向けて継続的に学ぼうとする意欲を高めることができるようになる。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度（20％）、個人発表やワークシート等への記入及び課題の提出（40％）、定期試験（40％）
提出物等課題の返却時、個別及び全体での振り返りを行うことによりフィードバックする。

【使用テキスト】

神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著「乳幼児教育・保育シリーズ『保育内容 環境』」（光生館、2018年3月）

【参考文献】

平成29年告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
文部科学省「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館 平成30年3月）
レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳「センス・オブ・ワンダー」（新潮社 1996年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園で、教員・園長として保育に携わってきた経験からの具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間）	備考
1	授業概要と保育の基本としての環境	復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分) 自然に関する個別発表の内容をまとめ用紙に記入する(30分)	
2	領域「環境」の考え方と内容	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
3	乳児期の育ちと環境との関わり	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
4	1歳以上3歳未満児の育ちと環境との関わり	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
5	3、4歳児の育ちと環境との関わり	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
6	環境と関わる力を育む保育（地域に視野を広げることで遊びが豊かに展開される）	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
7	環境と関わる力を育む保育（フィールドワークを通して）	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
8	環境と関わる力を育む保育（遊びや生活の中で思考力の芽生えを培う）	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
9	保育の構想の実際（園の環境をデザインする）	予習として授業内容に関係する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
10	子どもの育ちをつなぐ（乳児期からの3歳未満児）	予習として授業内容に関する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
11	子どもの育ちをつなぐ（3歳以上児として）	予習として授業内容に関する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
12	5歳児の育ちと環境との関わり	予習として授業内容に関する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
13	環境と関わる力を育む保育（伝統や文化に親しむ伝承遊びや歌・絵本など）	予習として授業内容に関する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
14	幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用）	予習として授業内容に関する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
15	保育者に求められること	予習として授業内容に関する範囲のテキストを読むと共に、幼稚園教育要領等の関連箇所を確認し、ノートにまとめておくこと(30分) 復習として授業内容を振り返りまとめるとともに、振り返りシートに記入しclassroomで提出すること(30分)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： CUI262
 授業形態： 演習
 科目名： 保育内容 - 言葉
 担当教員： 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための必修科目です。
 領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指す領域です。これを幼稚園教育の基本を踏まえ、幼児の発達に即した主体的で対話的な深い学びを通じた保育で実現させていきます。そのため、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」における「ねらい及び内容」について、その背景となる専門領域と関連させて理解を深めていきます。また、乳幼児の発達に即した保育者の役割、子どもが聞く、話す、文字等に関心をもつことの意義を理論的・実践的に学び、その具体的な方法を身に付けていきます。
 本授業ではアクティブ・ラーニング（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、発見学習、問題解決学習）を取り入れ、他者と協働的に学んでいきます。
 Google Classroom(クラスコード：me6xbqp)を使用し、ICT を活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
202104～202404	保育学科	指針・要領の理解	4
		洞察・判断する力	3
		保育を計画する力	3

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解することができる
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想することができるようになる
3. 模擬保育とその振り返りを通して、保育活動を創出する基礎技術、知識、洞察力、保育実践力を身に付けることができる。
4. 領域「言葉」のねらい及び内容に沿った具体的な保育を想定し、指導案を作成することができるようになる

【成績の評価】

- ・ 授業中の態度...15%
 - ・ 課題（なまえ絵本）...20%
 - ・ 課題（手袋人形）...10%
 - ・ 試験(授業内で実施)...40%
 - ・ 模擬保育の計画・内容・振り返り...15%
- 試験の結果については、オフィスアワーの時間に解説をする。

【使用テキスト】

文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館、2018年）
 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2018年）
 厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館、2018年）
 厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年）
 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館、2018年）
 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）

【参考文献】

戸田雅美編著『演習 保育内容「言葉」』（建帛社、2009年）

戸田雅美編著『演習 保育内容 言葉 - 基礎的事項の理解と指導法 - 』（建帛社、2019年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、幼稚園型こども園での勤務経験を活かし、具体的な保育実践例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、言葉の役割について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・手袋人形orなまえ絵本の作成(30分) 	
2	保育活動を創出する基礎技術と保育実践 <教材作成>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある手袋人形の動画を視聴し、保育活動としてのポイント考え、ノート等にまとめておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・手袋人形orなまえ絵本の作成(30分) 	
3	子どもの言葉の育ちとその道すじ～認知の発達 ~ <二項関係・三項関係>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「二項関係・三項関係」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・手袋人形orなまえ絵本の作成(30分) 	
4	子どもの言葉の育ちとその道すじ～認知の発達 ~ <象徴機能・内言・外言>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「象徴機能」「内言・外言」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・手袋人形orなまえ絵本の作成(30分) 	
5	保育活動を創出する基礎技術と保育実践 <実践発表>	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、領域「言葉」に焦点を当てた保育者の関わりや配慮事項を意識し、実践発表の準備を行う(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・なまえ絵本の作成(30分) 	
6	領域「言葉」のねらいと内容及び評価・小学校の教科等との繋がり～小学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、領域「言葉」と教科の繋がりや違いについて調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・なまえ絵本の作成(30分) 	
7	言葉の獲得と集団保育の意義 ~コミュニケーションとしての機能~	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「集団と言葉」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく(30分) ・なまえ絵本の作成(30分) 	
8	言葉の獲得と集団保育の意義 ~聞く・話す意欲を育むために~	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、「聞く・話す意欲を育むために」ということについて調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有 	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分） ・なまえ絵本の作成(30分)	
9	言葉の育ちを支える保育の実際～未満児の言葉の育ちを支える～	・予習として、未満児の言葉の特徴と援助方法について調べ、ノート等にまとめておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分） ・なまえ絵本の作成(30分)	
10	言葉の育ちを支える保育の実際～以上児からの言葉の育ちを支える～	・予習として、前回の講義内で配布された資料から、言葉の育ちを促す以上児との関わりをまとめておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分） ・なまえ絵本の作成(30分)	
11	領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る	・予習として特に、領域「言葉」を意識した環境作りについて調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分） ・なまえ絵本の作成(30分)	
12	言葉を豊かにする保育教材の作成と取り入れ方(計画・振り返り・改善)	・予習として、自分で作成した保育教材を使用した保育実践を動画で撮影し、それを基に振り返りを行っておくこと(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
13	言葉を豊かにする保育実践とその振り返りを通じた保育の改善	・予習として、言葉の領域の関連が強い活動の評価の仕方について調べ、ノート等にまとめておくこと(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
14	言葉遊びの保育への取り入れ方と、その具体	・予習として、「言葉遊び」について調べ、その内容をノート等にまとめたり、資料を集めたりしておく(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
15	学びの振り返りと質疑・まとめ	・予習として、今まで講義を振り返り、理解できていないところなど、自身の課題を明確にしておくこと(30分) ・復習として、Google Classroomの【共有フォルダ】内にある講義資料からキーワードを3個あげ、それについて調べてノート等にまとめておく（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI172
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 造形表現
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

本授業科目は、造形表現に関する授業です。授業の内容として、幼児における「表出」と「表現」の違いや、そのメカニズム、造形表現の変遷を学習します。主に幼稚園教諭等として多彩な教育活動を創出する基礎技能を基盤とした実践力を身につけるために、子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を修得します。教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を学習します。また、子どもたちの成長や発達段階を踏まえて、子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目でもあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
202104～202404	保育学科	指針・要領の理解	1
		洞察・判断する力	2
		表現技術と創造力	6
		保育を計画する力	1

【到達目標】

- 1 指針・要領に書かれてある事柄のうち、造形表現に関わる内容を理解することができる。
- 2 子どもの作品を共感的に受け入れ、造形表現を多面的に理解しようとすることができる。
- 3 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、素材を活かした表現や発展させる創造力を身につけることができる。
- 4 子どもの成長や実態に応じて、造形表現の内容やプロセス、環境を理解し、計画することができる。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を60%、折り紙小テスト10%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげることによってフィードバックする。

【使用テキスト】

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）
樋口一成 編著『幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形教材－』（萌文書林 2018年）

【参考文献】

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、造形表現とは、学習の仕方について 4コマ漫画の課題説明、立体物製作の課題説明	予習として、この授業のシラバスを確認しておくこと。（30分） 復習として、4コマ漫画のストーリーを考えると。（30分）	
2	立体物製作「きれいなサカナを作ろう」 アイデア展開（6案）を考える。アイデアが決まったら、色彩計画を立てカラードフォルム紙の色を選択	予習として、立体物製作の装飾デザインを考えておくこと。（30分） 復習として、どのデザインにするかを考えて色彩計画を立てておくこと。（30分）	
3	立体物製作「きれいなサカナを作ろう」 参考作品紹介 型紙をカラードフォルム紙に転写	予習として、立体物製作の色彩計画を考え、素材を用意しておくこと。（30分） 復習として、装飾デザインをブラッシュアップしておくこと。（30分）	
4	立体物製作「きれいなサカナを作ろう」 転写した形（パーツ）をカッターナイフやハサミで丁寧に切る	予習として、立体物製作の色彩計画を考え、素材を用意しておくこと。（30分） 復習として、装飾デザインをブラッシュアップしておくこと。（30分）	
5	立体物製作「きれいなサカナを作ろう」 それぞれのパーツを、ボンドで接着しながら組み立てる	予習として、立体物製作の色彩計画を考え、素材を用意しておくこと。（30分） 復習として、装飾デザインをブラッシュアップしておくこと。（30分）	
6	立体物製作「きれいなサカナを作ろう」 カラードフォルムやトータルカラーなどで、頭部やウロコ、ヒレなど製作	予習として、立体物製作の色彩計画を考え、素材を用意しておくこと。（30分） 復習として、装飾デザインをブラッシュアップしておくこと。（30分）	
7	立体物製作「きれいなサカナを作ろう」 カラードフォルムやトータルカラーなどで、頭部やウロコ、ヒレなど製作 作品講評会	予習として、細部の色彩計画を考え、素材を用意しておくこと。（30分） 復習として、作業工程や注意すべき点を記述してまとめておくこと。（30分）	
8	ちぎり絵 テーマ「秋」	予習として、テーマにそってアイデア展開をしておくこと。（30分） 復習として、さらに修正箇所があれば修正すること。（30分）	
9	四コマ漫画 起承転結を用いたストーリーのアイデア展開	予習として、アイデア展開をさらにブラッシュアップしてよりよい構成にしておくこと。（30分） 復習として、下描きを見直し。修正箇所があれば修正する（30分）	
10	紙粘土工作 テーマ「食品」 紙粘土を使った成型	予習として、紙粘土で作るテーマ「食品」の何を作るかを決めて、その資料を用意すること。（30分） 復習として、紙粘土で成形した作品の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分）	
11	四コマ漫画 鉛筆による下書き	予習として、アイデア展開をさらにブラッシュアップしてよりよい構成にしておくこと。（30分） 復習として、下描きを見直し。修正箇所があれば修正する（30分）	
12	四コマ漫画 ペンによる仕上げ	予習として、下描きから白と黒のバランスを考えておくこと。（30分） 復習として、ペンによる仕上げを見直し。修正箇所があれば修正する（30分）	
13	紙粘土工作 着彩	予習として、紙粘土の着彩計画を立て、アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、塗り残しがないか、テカリが必	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		<p>要な部分がないかを確認し、修正しておくこと。（30分）</p>	
14	紙粘土工作 着彩仕上げ	<p>予習として、見本画像と見比べて彩色仕上げのより細かな個所を確認し修正すること。アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、紙粘土工作の作業工程、注意すべき点等を書き留めておくこと。（30分）</p>	
15	四コマ漫画 発表	<p>予習として、4コマ漫画の発表の準備しておくこと。（30分） 復習として、指摘事項について修正すること。（30分）</p>	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI183
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 音楽表現
担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

保育者自身が子どもにとって望ましい音楽環境になることを目指して、ピアノや歌だけでなく、音楽の幅広い可能性を体験することができる授業です。子どもが何かに感動してそれを表現した時、それを受けとめて感動を共有し増幅できる保育者が望ましいと思います。保育活動の中でどのように音楽的要素を取り入れるかについても考える機会にできるはずです。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択必修科目です。学生への連絡等はGoogle Classroomを使用します。クラスコードはtyro6prです。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	指針・要領の理解	2
		洞察・判断する力	1
		表現技術と創造力	3
		保育を計画する力	2
		子どもと関わる力	2

【到達目標】

- 1．領域「表現」のねらいと内容を理解しそれを念頭において感性豊かに子どもと関わるができる。
・・・学修成果『指針・要領の理解』と対応
- 2．子どもの些細な表現も見逃さずに捉え、的確な対応ができる。
・・・学修成果『洞察・判断する力』と対応
- 3．音楽の様々な技術を修得し、その場に応じて想像豊かに実践することができる。
・・・学修成果『表現技術と想像力』と対応
- 4．保育の様々な場面で必要な音楽的要素を見極め、子どもの音楽環境を整えることができる。
・・・学修成果『保育を計画する力』と対応

【成績の評価】

課題に取り組む姿勢(20%)、提出物(60%)、楽譜に関する基礎知識の理解度(20%)
課題・提出物はその都度添削して返却する。

【使用テキスト】

子どものうた村保育の木(小川宜子他編、ドレミ楽譜出版社、2008年)
その他、必要な資料はその都度配布する。

【参考文献】

幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)
保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編(文部科学省、2018年)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	指針・要領における「豊かな感性」とは何か	予習：数日間に亘って「感動したこと」を記録する。（30分） 復習：自らの感性はどの部分が豊かなのか、どこが豊かでないのかについて考えたことを課題シート1に記入する。（30分）	
2	指針・要領における「表現」の理解	予習：乳児は何をどのように表現しているのか、予想できることを5つ以上課題シート1に記入し提出する。（30分） 復習：指針・要領の五領域で「表現」以外の四領域それぞれについて「感性」「表現」に関係すると思われる部分を課題シート2に記入する。（30分）	
3	音楽的感性と音楽表現	予習：指針・要領の五領域「表現」の「内容」すべてを音楽の立場からどう読み取れるのかを考え、前回配布した学習シート3-1に記入する。（30分） 復習：音楽的感性を育むためにどのような環境が望ましいのか課題シート3にまとめる。（30分）	
4	楽譜の基礎知識	復習：課題シート4 - 練習問題 - に取り組む（1時間）	
5	器楽活動への導入・保育で用いる楽器	予習：保育の場で使うと予想される楽器名・使い方について知っていることをメモし発表できるようにしておく。（30分） 復習：課題シート5 - 器楽合奏へのアレンジ - に取り組む。（1時間）	
6	楽譜の基礎知識に関する小テスト リズム感をどう育むか	予習：「楽譜の基礎知識」について十分に勉強する。（1時間） 復習：独自のリズム遊びを考え、課題シート6に簡単な指導案を作成して記入する。（1時間）	
7	リトミックとは何か リトミックの要素を取り入れた保育	予習：リトミックの歴史について文献で調べ、前回配布した学習シート7-1にまとめる。（30分） 復習：リトミックに関する課題シート7に取り組む。（30分）	
8	「ことば」から「うた」へ	復習：自作の「うた」を配布した五線紙の大譜表に正しく記入する。（1時間）	
9	おはなしや劇に「うた」を 「うた」にできる場面の選択 歌詞としてふさわしい言葉	予習：「うた」を入れるのにふさわしいと思う絵本やセリフ劇の台本を2種類以上探し持参する。（30分） 復習：3場面以上について歌詞の案を作り、学習シート9を完成して次回持参する。（30分）	
10	おはなしや劇に「うた」を 決定した歌詞に旋律や伴奏をつける	復習：自作の曲の楽譜を完成し、次回持参する。（1時間）	
11	おはなしや劇に「うた」を 曲の調整・完成と演奏練習	復習：自作曲弾き歌いの練習（1時間）	
12	おはなしや劇に「うた」を	復習：学習シート12を完成して次回提出す	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
	作品の発表と振り返り	る。（30分）	
13	歌唱指導の方法 教材研究と指導案	復習：指定した曲の教材研究と指導案を課題シート13に記入して次回提出する。（2時間）	
14	歌唱指導の方法 指導案に沿った模擬保育	復習：模擬保育の反省を踏まえて修正した指導案を作成し次回提出する。（1時間）	
15	保育者に求められる感性と技術	予習：学習シート1～3，課題シート1～3を読み直しておく。（30分）	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ECE101
授業形態： 講義
科目名： 教育の原理と制度
担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本授業科目は、教育について考える授業です。教育を考えるための基本概念や基本枠組み、教育の歴史、思想、制度などを学び、理解することを通して、より良い教育・保育について考えるだけでなく、保育者をめざしている自分自身の在り方も考えていって欲しいと思っています。

本授業科目は、保育学科の卒業必修科目です。また、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための必修科目でもあります。また、本授業科目の単位を認定されていることが1年次後期の「保育実習」「観察参加」を履修するための条件となっています。

本授業科目では、授業に関する連絡・相談、課題の指示・受付などのためにGoogle Classroomを使用します。クラスコードは第1回授業時に連絡します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	使命感	1
		規範意識	1
		自律心	1
		指針・要領の理解	1
		保育に関わる専門的知識の習得	3
		洞察・判断する力	3

【到達目標】

1. 教育の基本概念や重要な理論・思想について、その意味・内容を正しく理解できている。
2. 今日の日本の教育がどのような理念、制度、体制の下で行われているのかについて、その特徴や歴史的な展開、課題という観点から理解している（「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」の理解も含む）。
3. 現代教育をめぐる諸課題について例示することができる。

【成績の評価】

- ・各回の授業後課題の総得点（60%）
- ・定期試験の得点（40%）

授業後課題の得点は、採点后、都度メール等でフィードバックします。
定期試験の結果や総合成績は、採点后、メール等でフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編、ミネルヴァ書房、2021年）。

【参考文献】

- ・「保育所保育指針」（厚生労働省、2017年3月告示）。
- ・「幼稚園教育要領」（文部科学省、2017年3月告示）。
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）。

その他、授業時に適宜紹介します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業の説明／教育の基本枠組み 教育学について	教育と	【授業後】授業後課題（理解度を確認する問題や記述問題など）を提示するので、それに取り組む（1.5時間）。
2	教育の基本枠組み 教育的関係について		【授業前】授業前課題（使用テキストを使った調べ学習）を提示するので、それに取り組む（2時間）。 【授業後】授業後課題（理解度を確認する問題や記述問題など）を提示するので、それに取り組む（1.5時間）。
3	教育の基本枠組み 教育の形態について	同上。	
4	学校教育の構造 思想について	学校の歴史と公教育思想	同上。
5	学校教育の構造	学校教育行政について	同上。
6	学校教育の構造 連法規について	現代日本の学校教育関	同上。
7	学校教育の構造 連携、安全対策など）について	学校教育の課題（地域	同上。
8	教育の現代的課題 安全教育について		同上。
9	教育実践の基礎理論 中心に	カリキュラムを中	同上。
10	教育実践の基礎理論 中心に	教授・学習理論を	同上。
11	教育実践の基礎理論	評価を中心に	同上。
12	様々な教育思想 ペスタロッチー	コメニウス、ルソー、	同上。
13	様々な教育思想	ヘルバルト、デューイ	同上。
14	様々な教育思想	ポストモダンの教育思想	同上。
15	教育の現代的課題 教育DXについて		【授業前】授業前課題（使用テキストを使った調べ学習）を提示するので、それに取り組む（2時間）。 【授業後】授業後課題（理解度を確認する問題や記述問題など）を提示するので、それに取り組む（1.5時間）。また、定期試験に向けて、資料を整理し、全学習内容の復習を行う（10時間）。
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： ECE102
授業形態： 講義
科目名： 保育者論
担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本授業科目は、保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）について多面的・多角的に学ぶものです。保育者の職務内容や保育の歴史など、他の授業科目で既に学んだことや実習を通して知ったことを再確認するだけでなく、これから保育者として現場に出て人生を歩んでいこうとする上で、知っておくべきことや考えておくべきことなどについても取り上げます。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための必修科目です。

本授業科目では、授業に関する連絡・相談、課題の指示・受付などのためにGoogle Classroomを使用します。クラスコードは第1回授業時に連絡します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	使命感	1
		望ましい行動	1
		規範意識	2
		温かさ	1
		指針・要領の理解	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		洞察・判断する力	2

【到達目標】

1. 保育者に関する知識（職務内容、制度的基盤、求められる資質・能力など）を理解できている。
2. 保育者が直面する問題の複雑さやそこで経験する葛藤や判断について、多面的・多角的に想像することができる。
3. 保育者として生きようとするのが自分にとってどのような意味を持つのかを説明することができる。

【成績の評価】

- ・ 授業後課題の総得点（60%）
- ・ 授業レポートの得点（40%）

授業後課題の得点は、採点后、都度メール等でフィードバックします。

授業レポートの得点や総合成績は、採点后、メール等でフィードバックします。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。授業で使用する資料は適宜配布します。

【参考文献】

- ・ 「保育所保育指針」（厚生労働省、2017年3月告示）。
- ・ 「幼稚園教育要領」（文部科学省、2017年3月告示）。
- ・ 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示）。

その他、授業時に適宜紹介します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	授業の説明／保育職の特質	【授業後】授業後課題（理解度を確認する問題や記述問題など）を提示するので、それに取り組む（1.5時間）。	
2	保育者の職務内容／保育者に求められている資質・能力の概観	【授業前】授業前課題（調べ学習や記述課題）を提示するので、それに取り組む（2時間）。 【授業後】授業後課題（理解度を確認する問題や記述問題など）を提示するので、それに取り組む（1.5時間）。	
3	保育者像の変遷／保育者に求められている今日的役割	同上。	
4	保育者を支える制度 養成、身分、処遇など	同上。	
5	保育者を支える制度 服務、人事、保障など	同上。	
6	子どもとの関わりにおける保育者の専門性	同上。	
7	専門職としての意識・責任・倫理	同上。	
8	保育者に求められるチームワーク	同上。	
9	保育者が行う安全対策	同上。	
10	保育者による子育て支援	同上。	
11	保育の質向上のための取り組み	同上。	
12	保育者が行う研究／研修	同上。	
13	保育労働	同上。	
14	保育者として成長すること	【授業前】授業前課題（調べ学習や記述課題）を提示するので、それに取り組む（2時間）。 【授業後】授業後課題（理解度を確認する問題や記述問題など）を提示するので、それに取り組む（1.5時間）。また、授業レポートの作成に取り組む（5時間）。	
15	保育者として生きること	同上。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： PSW102
授業形態： 講義
科目名： 子どもの発達と教育の心理学
担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

本授業科目は、「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」ために保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解することを目的とします。特に、乳幼児期の子どもたちは遊びのなかで、できることを少しずつ増やして、自らの自由や可能性を大いに広げていくため、養護及び教育の一体性や発達に即した援助を基本とできるような子ども理解が求められます。この授業では、子どもの知的発達と学びのしくみを理解することはもちろん、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解し、その上で「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」保育者をめざして学びます。

本授業科目は、卒業必修科目です。加えて、本授業科目は幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得のための必修科目です。

本授業科目では、授業前後の課題や資料等を配信・提出するにあたりGoogle Classroomを使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に 向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者 に温かく接することのできる豊かな人 間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察 力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	使命感	1
		望ましい行動	2
		自律心	1
		指針・要領の理解	3
		保育に関わる専門的知識の習得	3

【到達目標】

1. 子どもの知的発達を支える保育者の使命感や倫理観を高めることができる。
 2. 主として人間の知的発達に関する継続的学習を通して保育者らしい人間性を育むことができる。
 3. 主として人間の知的発達、ならびに知的発達を支える保育に関する専門的知識や思考力を身に付けることができる。
 4. 知的発達を支える保育実践の基礎を培うことができる。
- 以上を通じて、保育の対象となる乳幼児の心身の発達及び学習の過程についての知識を身につけ、心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することができます。

【成績の評価】

成績は、毎回の授業内容のまとめ（10％）とレポート課題3つ（10％）、定期試験の結果（80％）で総合的に評価します。

授業内容のまとめとレポート課題はすべて点検・返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

- ・松本峰雄監修 大野雄子・小池庸生・小林 玄・前川洋子著『よくわかる！保育士エクササイズ 保育の心理学演習ブック〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2021年）
- ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション / 子どもの発達と教育の心理学を学ぶ意義	予習内容：履修ガイド及びシラバスを予め確認する（0.5時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1.5時間）。	計2時間
2	子どもの発達と教育 - 発達に応じた教育	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。また、レポート課題に取り組み、次回授業で提出する（3時間）。	計6時間
3	子どもの発達と教育 - 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。	計3時間
4	知的能力の発達	同上	計3時間
5	行動主義からみた学習のしくみ	同上	計3時間
6	認知主義からみた学習のしくみ	同上	計3時間
7	記憶の成り立ち	同上	計3時間
8	思考の活用	同上	計3時間
9	学びの動機づけ	同上	計3時間
10	保育・教育における評価	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。また、レポート課題に取り組み、次回授業で提出する（3時間）。	計6時間
11	子どもを取り巻く地域福祉問題の現状 - 養育環境	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。	計3時間
12	子どもを取り巻く地域福祉問題の現状 - 児童虐待（法制度と現状）	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。また、レポート課題に取り組み、次回授業で提出する（3時間）。	計6時間
13	子どもを取り巻く地域福祉問題の現状 - 児童虐待（影響と対策）	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。	計3時間
14	子どもを取り巻く地域福祉問題の現状 - 保育対応	同上	計3時間
15	就学に向けて（小学校との連携・接続）	予習内容：次回授業のスライドを確認し、内容をプリントにまとめる（2時間）。 復習内容：本授業の内容をまとめ、提出する（1時間）。また、定期試験に向けて、プリントや授業内容のまとめを整理し、復習する（7時間）。	計10時間

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間） / 復習内容（時間）	備考
	定期試験(実施する)		合計60時間

科目ナンバリング： ECE231
授業形態： 演習
科目名： 特別支援教育・保育
担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目です。
「特別支援教育・保育」の内容は、特別な支援を必要とする多様化した子ども一人ひとりを正しく理解しニーズに応じた指導や支援が行える実践的な保育力を養います。また、乳幼児期の課題や望ましい支援のあり方では、保護者や専門機関と連携・協働して課題解決していく力を養います。
学びを通して対人援助者として必要な愛情や熱意、努力することを培い人間力の向上を図ります。
本授業科目は、課題の提示やレポートの提出にあたり「Google Classroom」を活用します。
クラスコードは「61fvqnf」です。事前に登録しておいてください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	望ましい行動	2
		温かさ	1
		協働・連携する力	2
		指針・要領の理解	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		洞察・判断する力	2

【到達目標】

1. インクルーシブ教育の基本的な考え方を学び、保育者として問題意識や人権意識を高める。
2. 障がいのある子どもの保育・教育の意義と理念を、指針や要領との関連で理解する。
3. 特別な支援を必要とする子どもの様々な特性を理解し、一人ひとりの実態把握が望ましい支援につながることを理解する。
4. 家庭や専門機関等との連携や協働のあり方について学びチーム・アプローチの大切さを理解する。
5. 特別支援教育の対象となる疾患や特性等について理解を深め、その内容を説明できる。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(30%)、小筆記試験(40%)を総合して成績を評価します。
なお、提出物については、事前に課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しておくので、予習した内容を簡潔にレポートして授業当日に提出を求めます(1時間)。また、その都度講評し、フィードバックを行います。小筆記試験に対してもフィードバックを行います。

【使用テキスト】

「よくわかる障害児保育」尾崎康子他編著 ミネルヴァ書房(2018年)

【参考文献】

適宜レジュメや資料を配付します。参考文献は必要に応じて授業内で紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が特別支援教育に取り組んできた経験を活かして、多様な子どもを正しく理解して一人ひとりに応じた実践的な支援方法や内容を解説します。また、様々なワークを通して共体験を味わいながら学んでいただきます。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
2	特別支援教育について - 歴史と現状 -	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
3	インクルーシブ保育の意義と課題	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
4	ICFと「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
5	幼児の理解と支援 運動発達と認知発達	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
6	幼児の理解と支援 発達課題	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
7	幼児の理解と支援 視覚障害児・聴覚障害児	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
8	幼児の理解と支援 知的障害児	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
9	幼児の理解と支援 病弱虚弱児・肢体不自由児	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
10	幼児の理解と支援 重度・重複障害児 - 医療的ケア対象児を含む	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返り	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		シート）の作成を求めます	
11	幼児の理解と支援 発達障害児 - 自閉症スペクトラム障害児等	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
12	幼児の理解と支援 発達障害児 - LD児・AD/HD児等	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
13	幼児の理解と支援 被虐待児、生活困窮児等	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
14	幼児の理解と支援 家族支援と就学支援	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
15	専門機関との連携と協働	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： ECE232
授業形態： 演習
科目名： 特別支援教育・保育
担当教員： 川田 人包(KAWATA Hi tokane)

【授業の紹介】

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、そして保育士資格取得のための必修科目です。「特別支援教育・保育」では、「特別支援教育・保育」の学びをふまえ、保育・教育現場の事例検討やグループ討議、実技指導等の演習を通して、特別な教育的ニーズのある幼児児童に対する実態把握に基づき具体的な支援の内容や方法を実践的に学ぶことができるように解説します。また、様々な理論や方法に関する演習を通して洞察力や子どもの行動を分析する力を養います。学びを通して対人援助者として必要な愛情や熱意、努力することを培い人間力の向上を図ります。

本授業科目は、課題の提示や提出にあたり「Google Classroom」を活用します。クラスコードは、「lgyq5tt」です。事前に登録をしておいてください。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に 向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者 に温かく接することのできる豊かな人 間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察 力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎 技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	望ましい行動	2
		温かさ	2
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		洞察・判断する力	2
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. インクルーシブ教育や特別支援教育の基本概念について、その意味や内容を説明できる。
2. 効果的な指導法や理論を通して特別支援教育に係る専門的な知識や技術を培うことができる。
3. 特別な支援を必要とする幼児等の保育や教育における「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の意義を学び、継続的に偏りのない支援に向けて実際に作成して活用ができる。
4. 保護者への支援や専門機関との連携、特別支援教育コーディネーターの役割等について学び、一人ひとりの子どもが健やかに育つユニバーサルな環境やチームアプローチに向けて実践力を培うことができる。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価します。なお、提出物については、事前に課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しておくので、予習した内容を簡潔にレポートして授業当日に提出を求めます（1時間）。また、その都度講評し、フィードバックを行います。小筆記試験に対してもフィードバックを行います。

【使用テキスト】

「よくわかる障害児保育」尾崎康子他編著 ミネルヴァ書房（2018年）

【参考文献】

適宜レジュメや資料を配付し、必要に応じて「Google Classroom」や講義内で紹介する。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が特別支援教育に取り組んできた経験を活かして、多様な子どもを正しく理解して一人ひとりに応じた実践的な支援方法や内容を解説します。また、様々な発達支援の技法を通して共体験を味わいながら学びます。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
2	障害児保育・特別支援教育の理念と役割	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
3	アセスメントについて	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
4	観察法・面接法・心理検査等	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
5	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
6	ユニバーサルデザインによる環境づくり、授業づくり	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
7	モンテッソーリ法について	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
8	ソーシャルスキルトレーニング	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
9	感覚運動遊び - ムーブメント教育 -	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
10	セルフコントロール - 臨床動作法 -	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		シート）の作成を求めます	
11	コミュニケーション	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
12	療育や発達支援に関わる専門家との連携と協働	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
13	事例検討 ～発達障害児への対応	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
14	事例検討 ～積極的な行動支援（応用行動分析：ABA）	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
15	からだところ - ストレスマネジメント教育 -	事前に、課題や授業内容を「Google Classroom」に投稿しますので、使用テキスト等を活用して予習した内容を簡潔にレポートして提出を求めます（1時間） また、授業終了後にワークシート（振り返りシート）の作成を求めます	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： CUI212
授業形態： 講義
科目名： 保育と教育のカリキュラム論
担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

幼稚園等では、保育者が子どもたちと楽しそうに遊び、生活が展開されていますが、すべての活動は、教育・保育のカリキュラムに基づいて行われています。この授業では、各幼稚園等において編成される教育・保育のカリキュラムについて、その意義や編成の方法を理解するとともに、実態に応じてカリキュラム・マネジメントしながら豊かな保育実践が行えるよう、学んでいきます。
本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目です。
なお、本授業科目では課題の指示や提出にあたりGoogleClassroomも使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	3．高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4．多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	指針・要領の理解	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		洞察・判断する力	2
		保育を計画する力	5

【到達目標】

「保育学科のめざす保育者像」に基づき、次の3つを到達目標と設定します。
1．幼児教育において、教育・保育のカリキュラムが有する役割や機能、並びに意義を、要領・指針等を基に理解することによって、使命感や倫理観を高めることができる。
2．教育・保育のカリキュラム編成の基本原則、並びに幼稚園等の保育実践に即した教育・保育のカリキュラム編成の方法等、保育を計画するための専門的知識を習得することができる。
3．園・所の教育・保育カリキュラム全体を、多角的に考えマネジメントすることの意義を理解し、豊かな保育実践の基盤を培うことができる。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度(20%)学習シート等の課題の記入や提出(40%)定期試験(40%)課題の返却により、個別及び全体での振り返りを行うことでフィードバックする。

【使用テキスト】

- ・教育課程論(神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香 編著、光生館 2018年)
- ・保育所保育指針解説(厚生労働省 フレーベル館 2018年)
- ・幼稚園教育要領解説(文部科学省 フレーベル館 2018年)
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年)

【参考文献】

適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園で、教員・園長として教育・保育のカリキュラムを作成した経験を生かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間)	備考
1	オリエンテーション、 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼 保連携型認定こども園教育・保育要領」とは	復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間)	
2	教育・保育カリキュラムの基礎的概念	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間)	
3	幼稚園・保育所・こども園の歴史的変遷の概 要及び保育をめぐる環境・現代の保育事情	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間)	
4	幼稚園・保育所・こども園の生活と子ども理 解	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間)	
5	教育要領・保育指針等における保育のねらい ・内容及び内容の取扱い	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間)	
6	保育の循環と評価の意義	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間) 保育指導案の作成(3時間)	
7	子どもの発達過程の概要	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間) 保育指導案の作成(3時間)	
8	子どもの発達特性や発達過程を指導計画に生 かす方法の理解(総合的な遊びを通して)	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで 提出すること(2時間) 保育指導案の作成(3時間)	
9	幼稚園、保育所、こども園における教育・保 育カリキュラム(全体的指導)の実際	予習として、授業内容に関係する範囲の指定 教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の 関連個所を確認し、ノートにまとめておくこ と。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると 共に振り返りシートに記入し、Classroomで	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		提出すること(2時間) 保育指導案の作成(3時間)	
10	幼稚園、保育所、こども園における指導計画(月・週案等)の実際	予習として、授業内容に關係する範圍の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連個所を確認し、ノートにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、Classroomで提出すること(2時間) 指導案に基づく教材研究案の作成(2時間)	
11	教育・保育カリキュラムの編成と展開について	予習として、授業内容に關係する範圍の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連個所を確認し、ノートにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、Classroomで提出すること(2時間) 指導案に基づく教材研究案の作成(2時間)	
12	指導計画の作成と展開について (月の指導計画)	予習として、授業内容に關係する範圍の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連個所を確認し、ノートにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、Classroomで提出すること(2時間)	
13	指導計画の作成と展開について (週の指導計画)	予習として、授業内容に關係する範圍の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連個所を確認し、ノートにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、Classroomで提出すること(2時間)	
14	指導計画の作成と展開について (週案から保育指導案へ)	予習として、授業内容に關係する範圍の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連個所を確認し、ノートにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、Classroomで提出すること(2時間)	
15	幼稚園、保育所、こども園における保育の評価の実際	予習として、授業内容に關係する範圍の指定教科書を読むとともに、幼稚園教育要領等の関連個所を確認し、ノートにまとめておくこと。(1時間) 復習として、授業内容を振り返りまとめると共に振り返りシートに記入し、Classroomで提出すること(2時間)	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： CUI101

授業形態： 講義

科目名： 保育・教育の方法及び技術

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko),中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

本授業科目は、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力及びこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び技術に関する基礎的な知識・技能を身に付けます。また、パソコンを中心とした情報機器を活用（情報モラルを含む）し、教材作成や保育実践に関する基礎的な能力を身に付けます。

本授業科目は、保育学科の卒業必修科目です。また、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目であり、かつ保育士資格取得のための選択必修科目です。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
202104～202404	保育学科	規範意識	1
		協働・連携する力	1
		保育に関わる専門的知識の習得	3
		表現技術と創造力	2
		保育を計画する力	3

【到達目標】

1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法の基礎理論と実践（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解することができる。
2. 園・学級・子ども・保育者・保育室・教材など保育を構成する専門的知識と、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした表現技術と創造力を培うための基礎を修得することができる。
3. 育みたい資質・能力と子ども理解などに基づいた保育計画及び評価の基礎的な考え方（PDCAサイクルなど）を理解することができる。
4. 保育現場で役立つ情報機器及び教材の活用の基本操作（情報モラルを含む）を身に付け、効果的な教材作成や保育実践に結び付ける基礎を修得することができる。

【成績の評価】

○第1～10回（田中）

授業の取り組みに対する課題（60%）、指導案の作成・提出（10%）
フィードバックは、授業内で課題の作成や調整・修正時に点検しながら行う。

○第11～15回（中村）

成績は、授業への出席時の課題提出（10%）とその出来栄え（20%）で評価する。フィードバックは、授業内で課題の作成や調整・修正時に点検しながら行う。

* 第1～10回を担当する田中と第11～15回を担当する中村の評価を合わせ、100%とする。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

- ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	保育のすすめかたについて	予習内容：シラバスを読み、授業内容を把握し、自分なりに保育の進め方を考えてみる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
2	環境構成について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
3	指導案作成の基本について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
4	主体的で対話的な保育の展開について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
5	保育における導入・展開・まとめについて	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
6	保育者の姿勢について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
7	環境としての保育者について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
8	子ども理解について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
9	保育実践について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時間）。	田中担当
10	子どもの実態に応じた保育の展開について	予習内容：指示した資料を事前に読み、分からない用語を調べノートにまとめる（2時間）。 復習内容：授業で用いた指導案作成の基本を、授業後復習し、覚えるようにする（2時	田中担当

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		間）。	
11	保育に役立つ情報機器の活用 - 保育業務の効率化に必要な情報活用能力（情報モラルを含む）	予習内容：なし。 復習内容：今後の授業計画を踏まえ、必要な準備をする（3時間）。	中村担当
12	保育に役立つ情報機器の活用 - 保育教材づくりのために知っておくと便利なこと	予習内容：提示したWebページや資料を確認する（2時間）。 復習内容：保育教材づくりに必要なアイテムを準備する（3時間）。	中村担当
13	魅力的な保育教材づくり - ペープサート	予習内容：保育教材づくりに必要なアイテムを準備する（2時間）。 復習内容：ペープサートを完成させて、提出する（2時間）。	中村担当
14	魅力的な保育教材づくり - 音	予習内容：なし。 復習内容：アニメーションづくりに必要なアイテムを準備する（4時間）。	中村担当
15	魅力的な保育教材づくり - アニメーション	予習内容：なし。 復習内容：アニメーションを完成させて、提出する（4時間）。	中村担当
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： PSW111
授業形態： 演習
科目名： 子どもの理解と援助
担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

子ども理解は、保育のあらゆる営みの基本となるものである。
幼稚園等における子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの発達や学びおよび、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることなどを授業にて行う。その上で、子どもおよび保護者と温かく接することができる温かな人間性をはぐくむ態度を修得する。
本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得のための必修科目である。また、本授業科目の単位を認定されることが、2年次前期の「教育実習」を履修するための条件となっている。
本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	望ましい行動	2
		自律心	1
		協働・連携する力	2
		指針・要領の理解	1
		保育に関わる専門的知識の習得	2
		洞察・判断する力	2

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領および保育所保育指針を理解した上で、子ども理解についての専門的知識を習得することができる。
2. 発達や学びを捉える原理や意義や教師の基礎的姿勢や資質（使命感、倫理観、教育的愛情、温かな人間性など）ならびに洞察力・判断力を身に付けることができる。
3. 観察と記録を基軸とする子ども理解の意義と方法を多彩な視点（子ども個々の特性、個と個の関わり、個と集団との関わり、家庭・地域など）から具体的に理解することができる。

【成績の評価】

学習シートへの記入内容（20%）、個人記録の作成・提出（20%）、最終のまとめ（60%）
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

【参考文献】

適宜紹介する

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	子ども理解の必要性について	予習内容：なし 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
2	子ども理解と子どもの発達について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
3	子ども理解と内面理解について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
4	子ども理解における保育者の基本姿勢について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
5	子どもの様々な観察方法について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
6	個人記録の作成方法について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
7	個人記録の作成と記録の共有について	予習内容：なし。 復習内容：個人記録の作成（1時間）。	
8	子ども理解の深化にむけた学生自身の課題について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
9	子どもにとっての他者の関係と影響について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
10	実践例をもとに、子どもの背景理解について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
11	子どもの気になる言動とその背景理解について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
12	保育者の立ち位置から子ども理解の影響について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
13	保護者の置かれている現状について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
14	保護者理解と保育者の価値観について	予習内容：事前に資料を提示しますので、読んでくる（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
15	最終のまとめ：要点の整理・質疑応答	予習内容：最終のまとめに向けて、これまでの学習シートすべての振り返り（1時間）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： PSW243
授業形態： 講義
科目名： 教育相談
担当教員： 有馬 則子 (ARIMA Noriko)

【授業の紹介】

現在、核家族化や少子化に伴い、子育て不安や育児の悩みをもつ保護者、対人関係・コミュニケーション・虐待等の問題が生じている保護者も増え、教育・保育相談事業の重要性が高まっています。

本授業では、カウンセリングの基礎理論を学ぶとともに、日常的なかかわりの中で子ども、保護者、職員間での教育・保育相談の在り方を、具体的な場面を想定しながら学習し、専門的知識と思考力を身に付け、実践に生かせるようにしていきます。そのため、授業の中で、ロールプレイによる簡単なカウンセリング・エクササイズやグループワークを行います。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目です。

授業の連絡にあたりGoogle Classroomを使用します。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に 向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者 に温かく接することのできる豊かな人 間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察 力や判断力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	規範意識	2
		温かさ	2
		協働・連携する力	2
		保育に関わる専門的知識の習得	4

【到達目標】

1. 幼稚園等における教育・保育相談の意義と理論を理解することによって、使命感や倫理観を高めることができる。
2. 教育・保育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解し、保育者として相手を思う気持ちやコミュニケーション力など、豊かな人間性を育むことができる。
3. 教育・保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、子ども理解に基づいた適切な対応をすることができる。

【成績の評価】

- ・事例演習やグループ学習を含め、授業への参加意欲及び態度(20%)、学習シート等への記入や課題提出(40%)、定期試験(40%)を合わせて総合的に評価します。
- ・前回までの学習シートを添削して返却し、振り返りを行うことでフィードバックします。
- ・15回の授業のうち12回以上の出席が必要です。なお授業態度として、授業開始のチャイムが鳴り終わるまでに着席していることと、長時間の居眠り等が無いことが出席の条件です。

【使用テキスト】

- ・子どもの理解と保育・教育相談第2版(小田豊・秋田喜代美編 (株)みらい 2021年1月)
- ・幼稚園教育要領解説(文部科学省、平成30年3月)
- ・保育所保育指針解説(厚生労働省、平成30年3月)
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省、平成30年3月)

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園・こども園で教員や園長として保護者対応や職員の相談を行った経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション 教育相談の意義及び基礎的理論・概念について	復習として、授業内容を自分なりにまとめて、教育相談に関する課題を明確にしておくこと(4時間)。	
2	基礎的知識と技法：傾聴と共感	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
3	傾聴と及び共感の事例演習	予習として、教科書の事前に指示したページに目を通し、読み取ったことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
4	基礎的知識と技法：ポジティブメッセージとリフレーミング	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
5	ポジティブメッセージ及びリフレーミングの事例演習	予習として、事前に出された課題について、自分の意見や考えを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
6	基礎的知識と技法：メタフォリカルアプローチとチューニング	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
7	メタフォリカルアプローチ及びチューニングの事例演習	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
8	保護者面談の実際について 保護者面談の事例演習：子ども同士のトラブルについて	予習として、教科書の事前に指示したページに目を通し、読み取ったことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
9	保護者面談の事例演習：保護者の子どもへの関わりについて	予習として、教科書の事前に指示したページに目を通し、読み取ったことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
10	保護者面談の事例演習：虐待が疑われる場合について	予習として、教科書の事前に指示したページに目を通し、読み取ったことを事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
11	発達に課題をもつ子どもとその保護者への 関わり	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
12	発達に課題をもつ子どもとその保護者への 関わり	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
13	園内研修・保育カンファレンスと同僚性	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
14	園内研修・保育カンファレンスの事例演習 とアサーション及びアンガーマネジメント	予習として、専門用語などの意味を調べ、配付された事前学習シートに記載して授業時に提出すること(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
15	時事的教育課題、専門機関との連携	予習として、事前に出された課題について、自分の意見や考えをまとめて事前学習シートに記載し、授業時にグループワークの中で発表できるようにしておくこと(2時間)。 復習として、授業内容に関する教科書や配付資料に目を通し、自分なりに内容をまとめておくこと(2時間)。	
	定期試験(実施する)		

科目ナンバリング： PRA212
授業形態： 演習
科目名： 教育実習事前事後指導
担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

教育実習が円滑に実施され、より効果的に目標が達成されるよう、実習の事前・事後指導を行う授業である。事前指導としては、実習の目的等の概要、実習生としての心得の理解、指導案作成や教材研究、子ども理解など保育者の役割について学ぶ。実習開始前には幼稚園に出向き、子どもや実践活動の状況を、体験を通して学び取る。事後指導としては、振り返りをもとに、各自の課題を明確にしていく。

本学の場合、実習園の協力を得て長期にわたる（1年後期から2年の教育実習開始直前まで）現場体験を可能にしているため、幼児の実態、幼稚園の保育状況を十分理解したうえでの実習により、質の高い保育実践力を身に付けることができるようにしている。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に 向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者 に温かく接することのできる豊かな人 間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察 力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎 技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	望ましい行動	2
		規範意識	2
		自律心	2
		指針・要領の理解	2
		保育を計画する力	2

【到達目標】

1. 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、保育者としての規範意識、自律心、使命感および倫理観を培い、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
2. 教育実習で行われる研究保育等に備え保育計画に関する知識を習得できる。
3. 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むとともに、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能を理解することができる。

【成績の評価】

履修にあたって、身だしなみ等の事前指導を行う。これを誠実に守ることが履修の条件となる。授業参加の態度及び学習シート等の記入・提出（40%）、指導案の提出（30%）、最終のまとめ（30%）の総合点で評価する。指導案については、個別に添削し返却することでフィードバックする。最終のまとめは、授業中にフィードバックを行う。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

幼稚園教育実習要項（高松短期大学）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

幼稚園・こども園で、教員・園長としての現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション、教育実習の概要	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
2	教育実習の心得、態度	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
3	日誌・指導案の書き方	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
4	実習園の概要を知る・保育の流れを把握する	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
5	幼児の活動を体験する	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
6	保育者の関わりを学ぶ	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
7	保育者の援助とその意図を理解する	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
8	前期教育実習の心得、実習生としての役割の最終確	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
9	前期教育実習の省察を行う	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
10	課題に対する対策を立てる	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		録にまとめる（30分）。	
11	教材研究の方法	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
12	研究保育に向けて(指導案の作成)	予習内容：なし。 復習内容：研究保育を意識した指導案を作成する（60分）。	
13	前日指導実習に向けて(注意事項の把握と計画)	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
14	後期教育実習の概要、目標の整理	予習内容：観察参加及び教育実習における各自の課題を見出し、ノートにまとめておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組むこと（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
15	最終のまとめ（要点の整理と質疑応答）	予習内容：最終のまとめに向けてこれまでの学習シートを振り返る（30分）。 復習内容：幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめる（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： PRA111
授業形態： 演習
科目名： 観察参加
担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

実習協力園にて、保育者や子どもの様子を観察しながら、保育に参加する授業である。観察参加の目的・目標・方法等の概要、現場に出る心得等の理解及び観察の方法等を学んだ後、実際に幼稚園に出向く。幼稚園では、保育の流れを理解し、保育者や子どもの具体的な行動を記録したり、保育者の補助をしながら子どもとかかわる中で、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力に関する知識、技法、態度を修得する。さらに、子どもの思いを理解することや、保育者の援助の実際とその意図を考え、記録にまとめる。

本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。また、本授業科目の単位を認定されることが、2年次前期の「教育実習」を履修するための条件となっている。

本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に 向き合う使命感と倫理観
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察 力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎 技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	使命感	2
		望ましい行動	2
		指針・要領の理解	1
		保育に関わる専門的知識の習得	1
		洞察・判断する力	1
		子どもと関わる力	3

【到達目標】

1. 幼児とのかかわりを通して、その実態や課題を把握するとともに、保育者としての使命感及び豊かな人間性を育むことができる。
2. 指導教員等の実施する保育の視点をもって観察し、事実即して記録するとともに、保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
3. 教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。
4. 学級担任等の補助的な役割を担うことで、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を身につけることができる。

【成績の評価】

学内指導での学習シートの記入・提出（15%）、幼稚園観察および記録の内容（60%）、最終のまとめ（25%）

学習シート、観察記録、最終のまとめは、次回授業時間等を用いてフィードバックを行う。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

適宜紹介する

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

幼稚園・こども園で、教員・園長としての現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	観察参観学生としての心得および遵守事項について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
2	観察参加学生としての課題および観察の視点について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
3	観察参加園の歴史、教育方針、園組織および園での役割について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
4	観察記録の必要性および記入上の留意事項について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
5	観察参加園の1日の生活について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
6	1日の生活と保育者の援助について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
7	子どもの遊びと個々の子どもの特性の理解について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
8	子どもの年齢と発達について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
9	保育者の援助とその意図について（1）（実習生自身で探る）	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
10	保育者の援助とその意図について（2）（保育者に確認し、理解を深める）	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		分）。	
11	屋内外の道具と保育環境（安全管理）について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
12	子どもの活動に注目した観察参加記録の課題について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
13	保育者の援助に注目した観察参加記録の課題について	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
14	保育者の職務内容を観察した振り返りについて	予習内容：幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、分からない言葉を調べノートにまとめる（30分）。 復習内容：子どもの活動、保育者の援助および環境構成について観察記録を作成する（30分）。	
15	最終のまとめ（要点の整理・質疑応答）	予習内容：最終のまとめに向けて、これまでの学習シートを見直す（30分）。 復習内容：最終のまとめの内容を振り返る（30分）。	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： PRA213
 授業形態： 実習
 科目名： 教育実習
 担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

前期・後期の各2週間、実習園にて保育者と同様の勤務を行いながら、保育の内容・方法、保育者の役割や子どもとのかかわり方等を学ぶ。教育実習事前指導として実習園での事前学習を行うため、子どもや園の様子をある程度認識したうえでの実習となる。さらに、多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養うための知識、技法、態度を修得する。
 本学建学の精神にある「理論と実践の接点を開拓する」ために、事前指導で確認した課題をもとに、理論に根差した保育実践力を身に付ける機会にもなる。
 本授業科目は幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。
 本授業科目では課題の提示や提出にあたりGoogle Classroomを使用することがある。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	L0値
202104～202404	保育学科	使命感	1
		望ましい行動	1
		規範意識	1
		自律心	1
		温かさ	1
		協働・連携する力	1
		洞察・判断する力	1
		表現技術と創造力	1
		保育を計画する力	1
		子どもと関わる力	1

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案（保育の計画）を作成し、保育を実践することができる。
2. 保育に必要な基礎的表現技法と創造力（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
3. 学級担任の役割と職務内容および保育に関わる専門的知識を実地に即して理解し、保育者としての使命感および倫理観を培い、将来保育者になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。
4. 様々な活動の場面で適切に幼児とかかわり、洞察・判断する力を培うとともに豊かな人間性を育むことができる。

【成績の評価】

幼稚園からの評価に基づいて成績評価する。具体的には、実習への取り組み（10%）、幼児理解（15%）、幼児との関わり（15%）、指導の立案（15%）、指導の実際（15%）、環境整備（15%）、勤務態度（15%）である。また、教育実習事前事後指導と有機的に連動するため、どちらか一方の成績だけが認定されることはない。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【参考文献】

幼稚園教育実習要項（高松短期大学）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

幼稚園・こども園で、教員・園長としての現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	<p>前期<第1週></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習園の概要を知る 2. 1日の流れを把握する 3. 幼児の遊びの状況を理解し参加する 4. 年齢段階により遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る 5. 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ 6. 実習記録のとり方、反省、評価について学ぶ 7. 安全に対する配慮、清掃、環境整備のしかたを知る 	<p>予習内容（教育実習前）：教育実習園に関する事前学習を行った上で、教育実習で使用する教材（絵本の読み聞かせ、ペープサート、ピアノ）の準備を行う。 復習内容（教育実習後）：課題となったこと（教材作成、ピアノ練習など）の克服に向け取り組む。教育実習前と後を合わせて60時間行う。</p>	
2	<p><第2週></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間指導計画の中での現在の保育を理解する 2. 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る 3. いろいろな子どもとの関係を深める 4. 保育の中の指導と援助のあり方を探る 5. 部分実習をする 6. 保育実践の反省、評価を受ける 7. 園行事に参加し、行事の在り方について考える 	第1週部分を参照	
3	<p>後期<第3週></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期から比べて子どもの成長発達を理解する 2. グループダイナミックスの様子を知る 3. 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） 4. 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る 5. 季節の行事に関しての保育を知る 6. 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） 7. 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する 8. 園と家庭のとの連携についてその意義と方法を知る 	第1週部分を参照	
4	<p><第4週></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育室の環境整備・経営について知り実践する 2. 幼稚園教諭について職務内容を理解する 3. 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する 4. 園の特色ある保育についての理解を深める 5. 子育て支援についての特別保育（預かり、延長、未就園児保育等）の現状を知る 6. 全日保育の計画、実践をする 7. 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する 8. 実習反省会、お別れ会 9. これからの課題についてまとめ、助言を受ける 	第1週部分を参照	
	定期試験(実施しない)		

科目ナンバリング： COM203

授業形態： 演習

科目名： 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko), 中村 多見(NAKAMURA Tami), 佐々木 利子(SASAKI Toshiko), 相馬 宗胤(SOMA Munetane), 有馬 則子(ARIMA Noriko), 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi), 森本 将行(MORIMOTO Masayuki)

【授業の紹介】

保育実習ならびに教育実習を終えた学生を対象に、保育者（先生）になるための2年間の学びを、これまでの学びの復習を含めて総括するとともに、足りない内容を補完する授業です。また、保育者としての最低限の資質能力を有しているかどうかを確認する授業でもあります。

本授業科目は、幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目です。なお、本授業科目では課題の指示や提出にあたりGoogleClassroomも使用することもあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

要件年度	要件所属	ディプロマポリシー
202104～202404	保育学科	1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
		2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
		4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

【学修成果との関連】

要件年度	要件所属	名称	LO値
202104～202404	保育学科	使命感	2
		望ましい行動	2
		規範意識	1
		自律心	1
		温かさ	1
		協働・連携する力	1
		表現技術と創造力	1
		保育を計画する力	1

【到達目標】

1. 2年間の学びの総括として、これまで以上に保育を多角的に考えることができる。
2. 保育者の役割を広く理解し、使命感や責任感、社会性をより高めることができる。
3. 多様な学びの機会を活かし、子ども理解をより深めることができる。
4. 保育計画や教材研究を通じ、保育内容の指導力を高めることができる。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度（20%）、模擬保育での発表および学習シートやポートフォリオ等の課題の記入や提出（80%）で評価します。

課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

その都度プリントを配布します。

【参考文献】

保育所保育指針解説（厚生労働省、フレーベル館、2018年）

幼稚園教育要領解説（文部科学省、フレーベル館、2018年）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育園、幼稚園、こども園での保育・教育の現場経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
1	オリエンテーション／これからの授業の進めかた	予習内容：本科目のシラバスを確認する（30分）。 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	担当：田中
2	これまでの学びの振り返り	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと（30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	担当：相馬
3	現役保育者の講話を聴くことを通して保育職の実際を実感し、今何をすべきかを理解する	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと（30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	担当：佐々木
4	第3回をふまえ、現役保育者と意見交換する	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと（30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	担当者全員
5	保育者に求められる立ち居振る舞いを実践する	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと（30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	担当者全員
6	第5回の実践を相互評価する	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づ	担当者全員

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		<p>いたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	
7	保育現場における危機管理の基本を理解する	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：有馬
8	さまざまな事例を通して、危機管理の実際を学ぶ	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：有馬
9	特別支援教育の実際について学ぶ	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：佐々木
10	保こ幼小連携の取り組みの実際を学ぶ	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：佐々木

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
11	クラス経営のあり方、方法を学ぶ	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：有馬
12	保護者の思いを知る	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：田中
13	保育者の倫理を再確認する	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：相馬
14	さまざまな事例を通して保育者の倫理を深める	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。</p>	担当：相馬
15	保育職・教職の意義と役割について理解を深める	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと</p>	担当：田中

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		(30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。	
16	保育現場におけるトラブル対応についてディスカッションを行う	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。	担当：田中
17	保育内容にかかわるロールプレイング教材研究	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。	担当：辻野
18	保育内容にかかわるロールプレイング教材研究を深める	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。	担当：辻野
19	保育内容にかかわるロールプレイング作品作り	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。	担当：辻野
20	保育内容にかかわるロールプレイング保育にいかす	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさ	担当：辻野

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		<p>らなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	
21	保育内容にかかわるロールプレイング運動あそび	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	担当：森本
22	保育内容にかかわるロールプレイング運動あそびを深める	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	担当：森本
23	社会性と対人関係	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	担当：中村
24	実地調査事前指導	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	担当：田中

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
25	<p>実地調査：時期や発達をふまえた環境構成と保育の展開の実際を調査する</p>	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	<p>担当：田中</p>
26	<p>実地調査：保育の各場面における保育者の関わりの実際を調査する</p>	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	<p>担当：田中</p>
27	<p>実地調査事後指導</p>	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	<p>担当：田中</p>
28	<p>社会性と対人関係ロールプレイング</p>	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと (30分) 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す(30分)。</p>	<p>担当：中村</p>
29	<p>保育者にふさわしい常識やマナーを再確認する</p>	<p>予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと</p>	<p>担当：佐々木</p>

【授業計画詳細情報】

回	授業計画	授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間）	備考
		（30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	
30	総括：保育者としてふさわしい資質を習得できたか自ら振り返る	予習内容：各回の内容に即してこれまでの授業で使用したテキストの該当箇所を復習し、ノート等にまとめておくこと。また、保育補助ボランティア活動等を積極的に行い、気づいたことをノート等に記録し、保育技術のさらなる向上をめざすこと。さらには、保育に関するさまざまなニュースをリサーチし、課題を発見し、自分自身の見解をノート等にまとめ、問題解決に対する意欲を高めておくこと （30分） 復習内容：授業で用いた学習シートを読み直す（30分）。	担当：相馬
	定期試験(実施しない)		